

平成 29 年度

キャリア意識調査報告書

平成 30 年 3 月

お茶の水女子大学

はじめに

この報告書は、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センターが平成 28 年度に実施した「キャリア意識調査」の結果をまとめたものです。本調査は平成 23 年度に実施された「キャリア意識調査」に項目を追加して実施致しました。調査の目的は、学部生および大学院博士前期課程生を対象に、学生のキャリア意識・キャリア行動、キャリア教育・キャリア支援の実施効果に関する意識およびニーズを把握し、お茶の水女子大学においてどのような教育や支援の改善を行うべきかを検討することにあります。

調査の背景として、お茶の水女子大学では、就業力の基礎となるコンピテンシーを備えた女性リーダーの育成に向けた取り組みとして、2011 年度より学生・キャリア支援センターが中心となりキャリア教育およびキャリア支援を実施してきました。若年層の就業力が社会的課題となる中、大学および大学院でのキャリア教育・キャリア支援は大学における重要な取り組みのひとつとして位置づけられています。『平成 28 年度新入生の生活に関する調査報告書』（お茶の水女子大学 2016）によれば、本学に期待する学生支援として、新入生の 77%と保護者の 86%が大学の「就職支援」に期待を寄せると回答しており、こうした期待は継続的な傾向にあることが報告されています。

本報告書が、教育・支援に関わる教職員、特にキャリア教育・キャリア支援、進路指導などを担当する先生方、職員の皆様にとっての基礎資料として有益なものとなることを期待しております。

末筆となりますが、本調査に協力してくださった学生の皆様と関連部門の皆様から感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月 5 日

国立大学法人 お茶の水女子大学

理事 副学長

学生・キャリア支援センター長

三浦 徹

目次

調査の概要

第1章 キャリアデザインプログラム	5
1. キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況.....	5
2. キャリアデザインプログラム基幹科目に対する学生の評価.....	6
第2章 キャリア行動	9
1. 2017年3月卒業および修了者のキャリア行動.....	9
2. お茶大生の進路決定とキャリア支援の利用.....	13
第3章 インターンシップ	19
1. インターンシップへの参加経験.....	19
2. インターンシップの応募方法.....	20
3. インターンシップへの参加時期と期間.....	20
第4章 キャリア意識	23
1. 将来の職業をどのように考えているか.....	23
2. 就職先を決定する際に重視すること.....	24
3. 自己分析や情報収集に関すること.....	26
4. ライフコースの考え方：将来の結婚と仕事への価値観.....	29
5. 性別役割分業意識.....	30
第5章 考察と今後のキャリア教育・キャリア支援における今後の課題	33
1. キャリア教育.....	33
2. インターンシップ.....	35
3. キャリア支援.....	36

付表

1. 調査票.....	38
2. 単純集計表.....	46

執筆担当者

中川 まり（学生・キャリア支援センター准教授）担当：調査の概要、1-4章、5章1,2
服部 典子（学生・キャリア支援センター アソシエイト・フェロー）担当：5章3
山本 菜月（学生・キャリア支援センター アカデミック・アシスタント）担当：付表2

参考文献

お茶の水女子大学（2016）「平成 28 年度新入生の生活に関する調査報告書」.

——（2017）「平成 29 年度 新入生の生活に関する調査報告書」.

文部科学省（2017）「平成 27 年度大学等におけるインターンシップの実施状況について」.

調査の概要

● 目的

本調査は、学部生および大学院博士前期課程生におけるキャリア意識・キャリア行動、キャリア教育・キャリア支援の実施効果を把握することで、お茶の水女子大学において、どのような教育や支援の改善を行うべきかについての検討資料とすることを目的とする。

なお本調査は平成 28 年度計画 K6、K14-1 に基づいて実施した。この調査結果を基礎的資料とすることで、今後の改善策の策定を行うことが可能となるが、調査結果は平成 29 年度以降のキャリア教育・キャリア支援などに反映する予定である。

● 調査時期 平成 28 年 12 月から平成 29 年 1 月

● 調査方法

調査方法は、本学のインターネットサイト「Plone」を用いたウェブ上での質問紙調査である。調査開始日に対象となる学生に、各学生が持つ大学の E-メールアドレス宛に、参加依頼のメールを送った。E-メールには、Plone の URL が記載されており、対象者はそのリンクをクリックし、Plone 上のログイン画面から調査画面に移動してもらった。

調査画面の最初の画面では、本調査の概要の説明と、同意確認の説明画面が提示される。対象者は、概要と同意確認について読み、参加に同意した場合に調査画面が提示され回答を得た。

● 分析対象

調査対象者は、平成 28 年度 11 月時点で在学する学部生 2019 名、および大学院博士前期課程院生 482 名、計 2501 名である。このうち有効回答数は、学部生 566 名、博士前期課程院生 149 名、計 715 名である。学年別の内訳は以下の通りである。

表 0-1. 学部別調査対象者数および有効回答数

	調査対象者数	有効回答数	有効回答率
1 年生	489	174	35.6%
2 年生	485	121	24.9%
3 年生	523	118	22.6%
4 年生	522	153	29.3%
学部計	2019	566	28.0%
大学院博士前期課程	482	149	30.9%
全体	2501	715	28.6%

● 実施主体：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター（調査協力教育開発センター）

● 個人情報について：お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めている。（http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html 参照）

第1章 「キャリアデザインプログラム」

1. キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況

(1) キャリアデザインプログラム基幹科目受講者数

はじめにキャリアデザインプログラム基幹科目について、受講中もしくは受講したことがある科目について複数回答可として回答を得た。図表1-1に科目別受講者数を示す。

「お茶の水女子大学論」の学部生受講者割合は34.1%、同様に博士前期では29.5%、全体では33.1%であった。ついで「キャリアプランとライフプランⅠ」学部生7.2%、「女性リーダーへの道（入門編）」学部生6.5%である。その他の科目での受講者割合は3-5%となっている。キャリアデザインプログラム基幹科目は、「お茶の水女子大学論」が大学での学びの方向付けとして位置づけられ、1年次での履修が推奨されているが、推奨の効果であると推察される。

図表1-1. キャリアデザインプログラム基幹科目受講者数

科目名	学部生%		修士院生%		計	
	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)
「お茶の水女子大学論」	34.1%	193	29.5%	44	33.1%	237
「女性リーダーへの道（入門編）」（「パーソナル・ブランディング」）	6.5%	37	8.7%	13	7.0%	50
「女性リーダーへの道（実践入門編）」（「ファシリテーション」）	1.8%	10	2.0%	3	1.8%	13
「女性リーダーへの道（ロールモデル入門編）」（「女性のキャリアと経済」）	4.9%	28	5.4%	8	5.0%	36
「ことばと世界12 知能環境論」	1.2%	7	0.7%	1	1.1%	8
「情報コミュニケーション技術と創発性」（「ICTとコミュニケーションスキル」）	2.5%	14	1.3%	2	2.2%	16
「キャリアプランとライフプランⅠ」（「キャリアプラン」）	7.2%	41	6.7%	10	7.1%	51
「キャリアプランとライフプランⅡ」	1.4%	8	1.3%	2	1.4%	10
「キャリアプランニング実習」（「キャリアプランと進路選択」）	2.8%	16	0.0%	0	2.2%	16
「働く女性の権利と地位」（「女性のキャリアと法制度」）	0.5%	3	0.7%	1	0.6%	4
「共生社会で働く」（「ダイバーシティ論」）	2.3%	13	0.0%	0	1.8%	13
「インターンシップ」「インターンシップⅠ」「インターンシップ（大学院）」	2.8%	16	6.7%	10	3.6%	26
「インターンシップⅡ」（平成28年新設）	0.4%	2	0.7%	1	0.4%	3

注.平成29年度より科目名を変更した科目は新名称を（ ）に記載。

(2) キャリアデザインプログラム平均受講科目数

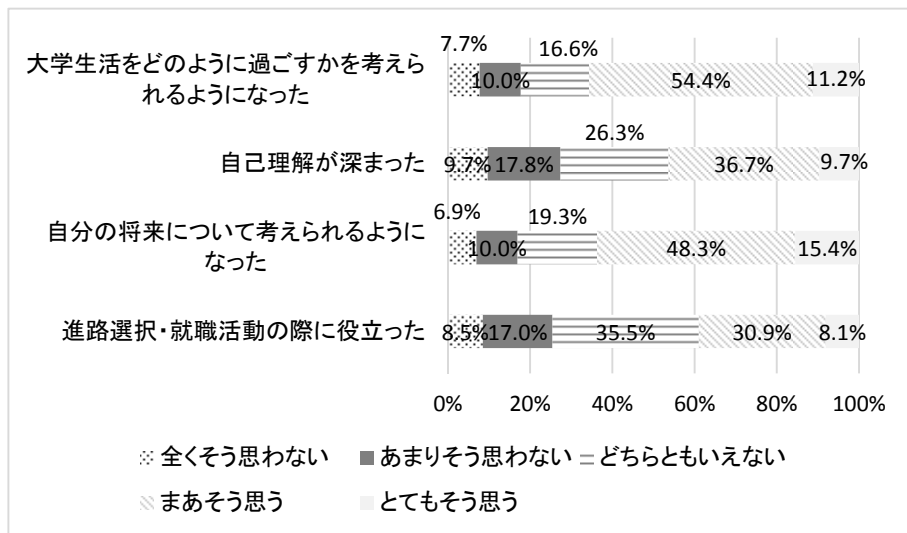
図表 1-2 は、キャリアデザインプログラム基幹科目に関する受講経験をもとに算出した対象者におけるキャリアデザインプログラム基幹科目の受講者数の記述統計である。学部生でキャリアデザインプログラム基幹科目について 1 科目でも受講したことがあると回答した学生の割合は、46.1%であり、同様に博士前期では 47.0%である。約半分の割合の学生が 1 つ以上のキャリアデザインプログラム基幹科目を受講しており、キャリア教育が徐々に浸透している。

図表 1-2. キャリアデザインプログラム平均受講科目数

種別	受講者割合 (人)	平均履修科目数	範囲
学部生	46.1% (261)	.69	0-7
修士院生	47.0% (70)	.64	0-3

2. キャリアデザインプログラム基幹科目に対する学生の評価

次にキャリアデザインプログラム基幹科目を受講した学部生 259 名および修士 69 名を対象に「受講したキャリアデザインプログラムの授業について、あなたの考えに最もあてはまる数字を『1 まったくそう思わない』～『5 とてもそう思う』から 1 つ選んでください」として 4 つの項目について尋ねた。結果を図表 1-3,4 に示す。



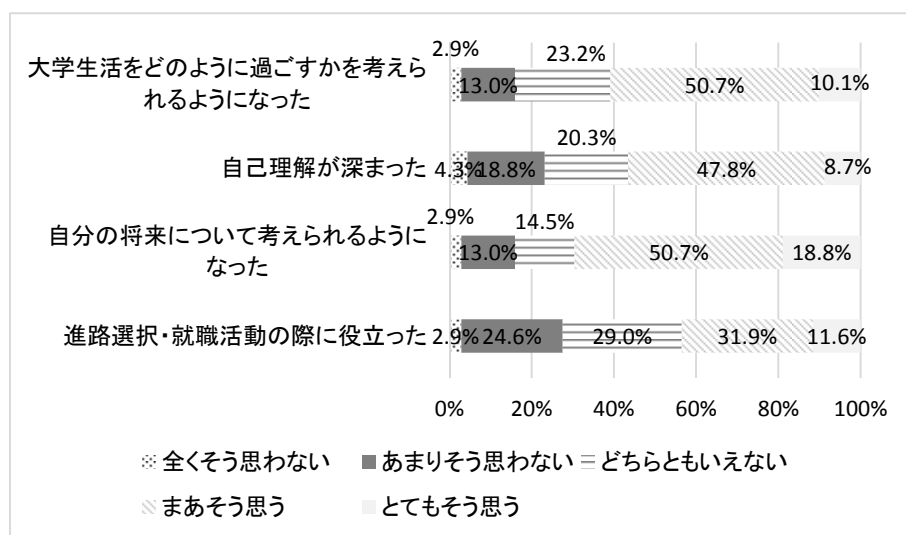
図表 1-3. キャリアデザインプログラム基幹科目受講者の評価 (学部生)

はじめに、「大学生生活をどのように過ごすかを考えられるようになった」は、「まあそう思う」54.4%、「とてもそう思う」11.2%である。約 6 割の学生がキャリアデザインプログラム基幹科目の受講を通じて大学生生活をどう過ごすかを考えている。次に、「自己理解が深まった」は、「まあそう思う」36.7%、「とてもそう思う」9.7%と約半数が自己理解を深められたと回答している。

「自分の将来について考えられるようになった」は、「まあそう思う」48.3%、「とてもそう思う」は15.4%であり、受講生のうち63.7%がこれらの科目を通じて自分の将来について考えるきっかけを得たようである。「進路選択・就職活動の際に役立った」は、「まあそう思う」30.9%、「とてもそう思う」8.1%であり上記の3項目に比べると役に立ったという該当率（「まあそう思う」と「とてもそう思う」の合計）は低い。

同様に修士の結果について図1-4に示す。「大学生活をどのように過ごすかを考えられるようになった」は、「まあそう思う」50.7%、「とてもそう思う」10.1%である。約6割の学生がキャリアデザインプログラム基幹科目の受講を通じて大学生活をどう過ごすかを考えている。次に、「自己理解が深まった」は、「まあそう思う」47.8%、「とてもそう思う」8.7%と半数以上が自己理解を深められたと回答している。

「自分の将来について考えられるようになった」は、「まあそう思う」50.7%、「とてもそう思う」は18.8%である。「進路選択・就職活動の際に役立った」は、「まあそう思う」31.9%、「とてもそう思う」11.6%であり学部生同様に上記の3項目に比べると役に立ったという該当率（「まあそう思う」と「とてもそう思う」の合計）は低い。



図表 1-4. キャリアデザインプログラム基幹科目受講者の評価（修士院生）

以上の結果から、キャリアデザインプログラム基幹科目の受講によって、約6割程度の学生は自分の将来や大学時代の過ごし方を考えるようになることが明らかになった。また自己理解を深めるとする学生も半数に上ることが示された。しかし、進路選択や就職活動などの個別性があり、また実践的なキャリア支援は、授業で取り上げることが少ない。よって進路選択・就職活動に役立つという評価が得られないことが推察された。

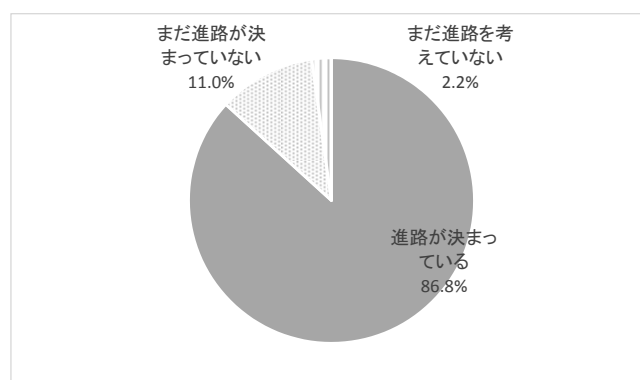
第2章 キャリア行動

本章では学生のキャリア行動に関する調査結果の分析を行った。キャリア行動として2017年度卒業・修了生における進路の決定状況（2017年1月時点）および進路への満足度、全学年学生における進路の決定時期、進路に関する相談相手、キャリア支援行事への参加およびその評価について取り上げた。

1. 2017年3月卒業および修了者のキャリア行動

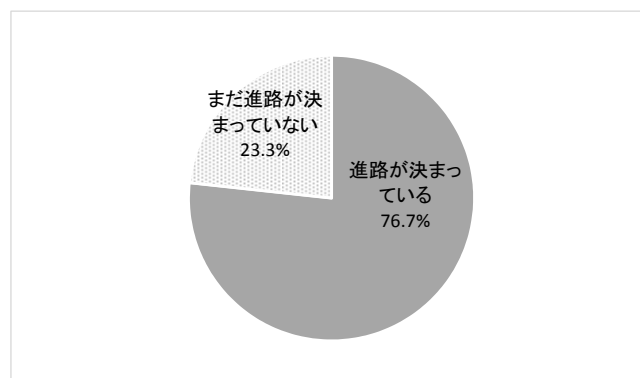
(1) 2017年3月卒業および修了者の進路決定状況

2017年3月卒業の学部生および修了する院生を対象に、進路の決定状況（2017年1月時点）を尋ねた。「あなたは就職・進学先などの進路が決まっていますか（内定していますか）。あてはまる数字を1つ選んでください」として、「1. 進路が決まっている」、「2. まだ進路が決まっていない」「3. まだ進路を考えていない」から選択してもらい回答を得た。学部の結果を図表2-1に示す。学部生では、86.8%の学生は進路が決まっている。しかし、まだ進路が決まっていない学生は11.0%となっている。



図表2-1.進路が決定しているかどうか（学部生）

同様に修士院生の結果を図2-2に示す。進路が決まっている院生は、76.7%と学部生の割合に比べて低い割合である。この理由として、修士院生の場合は、博士課程への進学か企業への就職として就職活動を止めていないことが推測される。

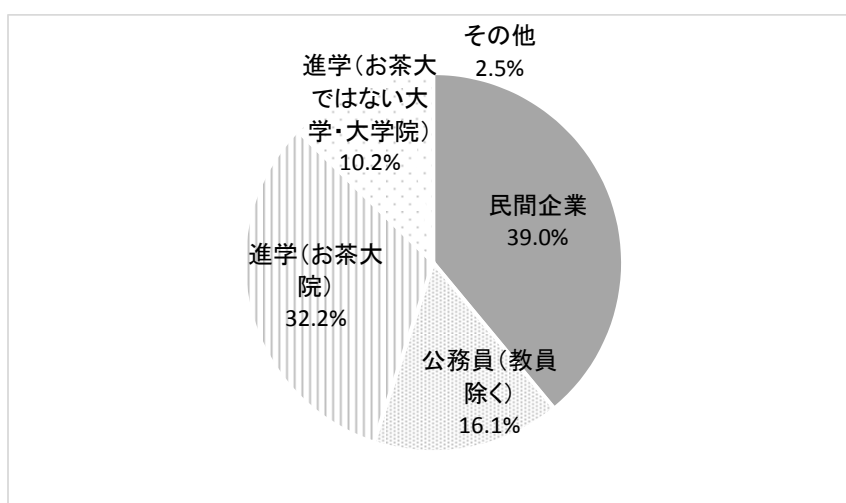


図表2-2.進路が決定しているかどうか（修士院生）

(2)「進路が決まっている」学生の具体的進路

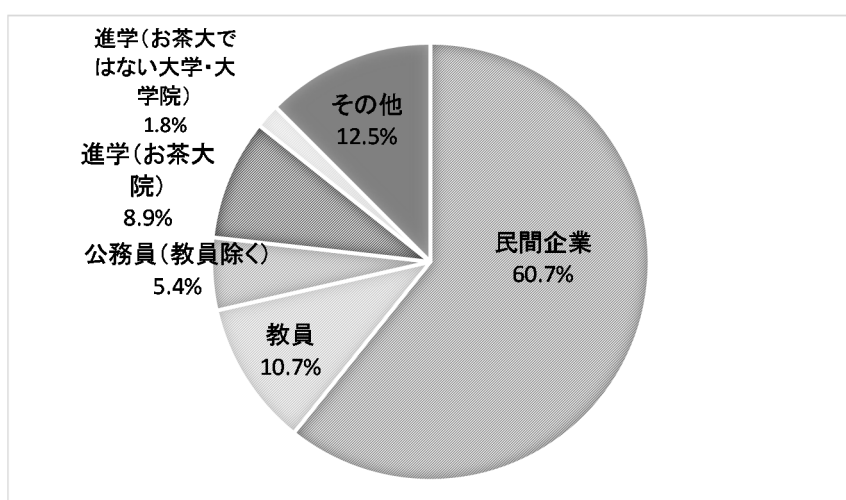
次に、先の質問で「進路が決まっている」と回答した学部生 118 名に、具体的な白を「1. 民間企業」、「2. 教員」「3. 公務員（教員を除く）」「4. 進学（お茶の水女子大学大学院）」「5. 進学（お茶の水女子大学ではない大学・大学院）」「6. その他」から選択してもらい回答を得た。学部の結果を図表 2-3 に示す。

学部生では、86.8%の学生は進路が決まっているが、具体的な就職先として、民間企業と回答した者は 39.0%、公務員は 16.1%であり、本調査で教員と回答した人はいなかった。進学では、お茶の水女子大学大学院への進学は 32.2%、お茶の水女子大学ではない大学・大学院は 10.2%であった。



図表 2-3. 具体的な進路（学部生）

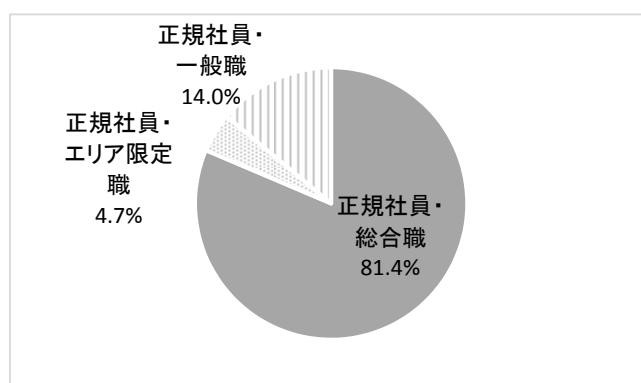
修士院生の結果を図表 2-4 に示す。修士院生では、76.7%の学生は進路が決まっているが、具体的な就職先として、民間企業と回答した者は 60.7%、教員は 10.2%、公務員は 5.4%であった。進学では、お茶の水女子大学大学院への進学は 8.9%、お茶の水女子大学ではない大学・大学院は 1.8%であった。



図表 2-3. 具体的な進路（修士院生）

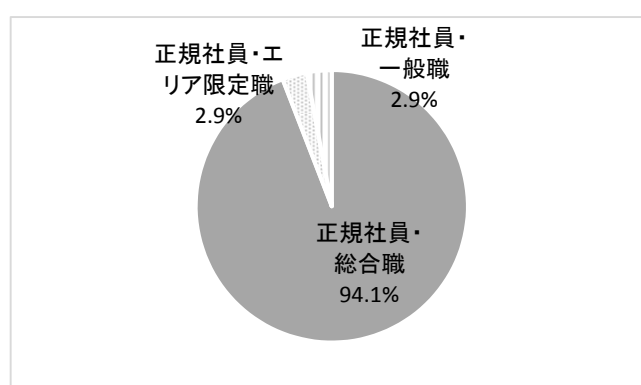
(3) 民間企業での就業形態

(2) で「民間企業」に就職する学生を対象に、就業形態について「1. 正規社員・総合職」「2. 正規社員・エリア限定職」「3. 正規社員・一般職」「4. 非正規社員」「5. まだ決まっていない」として尋ねた結果を図表 2-4,2-5 に示す。図表 2-4 では学部生 43 名が回答した結果を示す。正規社員・総合職と回答した人は 81.4%と約 8 割が正規社員・総合職として就職をする予定である。次いで、正規社員・一般職が 14.0%、正規社員・エリア限定職が 4.7%と続き、民間企業はすべて正規社員での就業となっている。



図表 2-4.民間企業での就業形態 (学部生)

同様に、図表 2-5 に修士 34 名が回答した結果を示す。正規社員・総合職と回答した人は 94.1%と 9 割以上が正規社員・総合職として就職をする予定である。正規社員・一般職および正規社員・エリア限定職はそれぞれ 2.9%、各 1 名ずつである。修士修了生は学部生と比較してほとんどが総合職として就職することから、キャリア志向が学部生よりも高いことが示された。



図表 2-5.民間企業での就業形態 (修士院生)

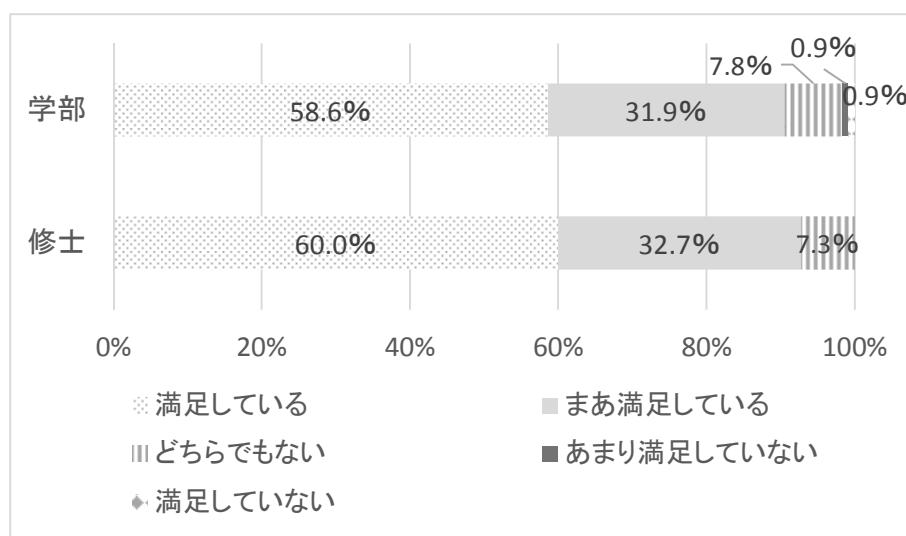
(4) 進路への満足度

(2) の問いにおいて「進路が決まっている」と回答した学部生 116 名、修士 55 名に対し、進路先に対する満足度について尋ね、「1. 満足している」「2. まあ満足している」「3. どちらでもない」「4. あまり満足していない」「5. 満足していない」から選択してもら

い、回答を得た。結果を図表 2-6 に示す。

学部生では、「満足している」と回答した人は 58.6%、次いで「まあ満足している」31.9%、「どちらでもない」7.8%であった。「満足している」「まあ満足している」の合計 90.5%であったことから学部生の約 9 割は進路先に満足をしていることが示された。

次に修士院生も同様の結果であり、「満足している」と回答した人は 60.0%、次いで「まあ満足している」32.7%、「どちらでもない」7.3%であった。「満足している」「まあ満足している」の合計は 92.7%であった。全体的にお茶大生は、進路先に満足をしているが、約 1 割弱の学生では満足度は「どちらでもない」ものの進路を決定しているようである。

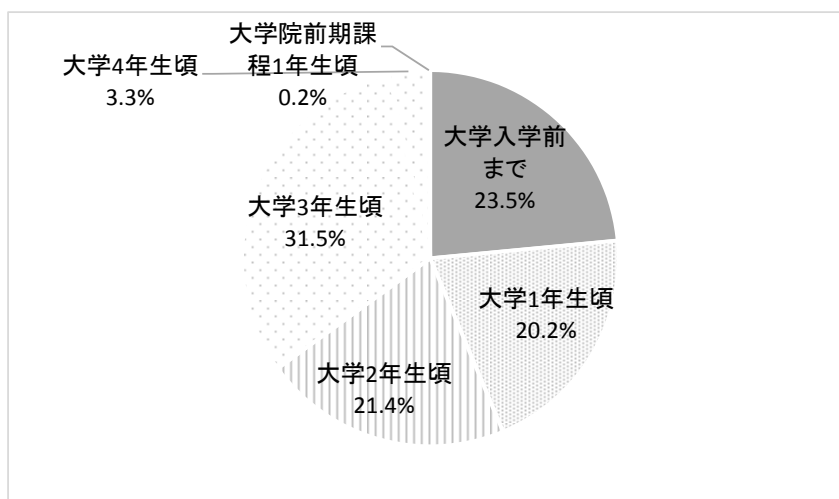


図表 2-6.進路先に対する満足度

2. お茶大生の進路決定とキャリア支援の利用

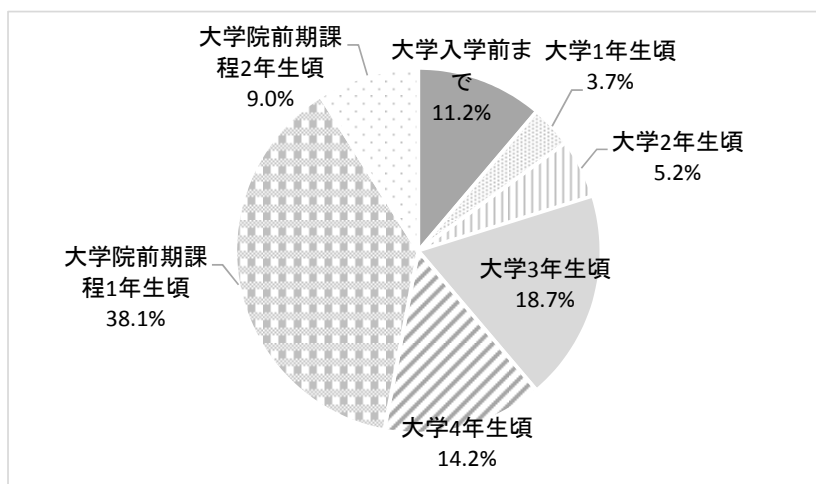
(1) 進路決定の時期

対象者全員に対し、進路を考え始めた時期について尋ね、「1. 大学入学前まで」から「7. 大学院前期課程2年生頃」からあてはまる時期を選んでもらった。図表 2-7 に学部生の結果を示す。最も多いのは「大学3年生頃」31.5%、次いで「大学入学前まで」23.5%、「大学2年生頃」21.4%と続く。学部生からは、3年生になってから進路を考え始めたという声はよく聞くが、その一方で大学入学前から将来を見据えて進路を考えている学生も2割程度いることが示された。



図表 2-7.進路を考え始めた時期 (学部生)

次に、図表 2-8 に修士に対して行った結果を示す。最も多いのは「大学院前期課程1年生頃」38.1%、次いで「大学3年生頃」18.7%、「大学4年生頃」14.2%と続く。この結果から、大学院に進学してから、進路を考える人と学部の3～4年生のうちに将来を視野に入れて修士に進学する人がそれぞれ4割程度であり、同じくらいの割合となっていることが示される。しかし修士2年になってから進路を考える学生も1割程度いる。この結果から、進路を就職とする場合を考慮すると修士に進学する場合でも学部3～4年次もしくは修士1年から就職にむけた準備を促すことが必要である。

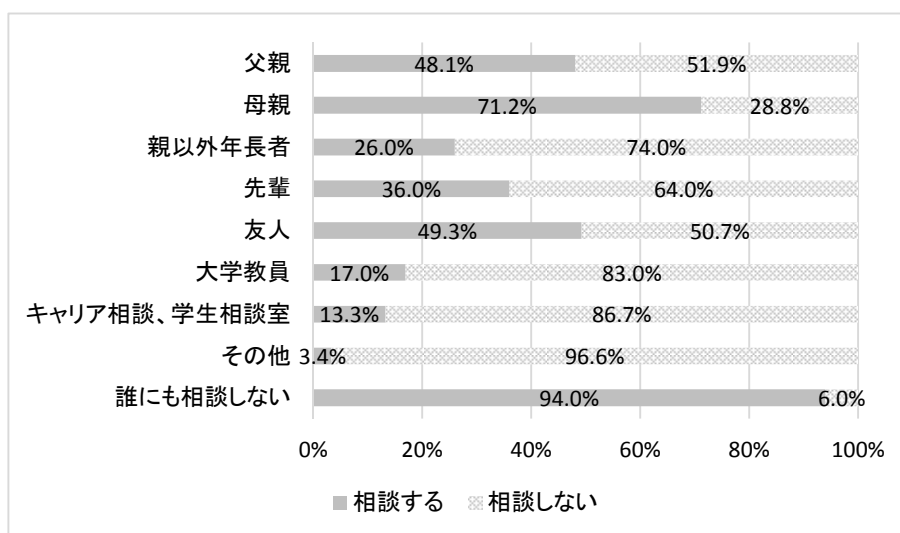


図表 2-8.進路を考え始めた時期 (修士院生)

(2) 就職・進学など進路の相談相手

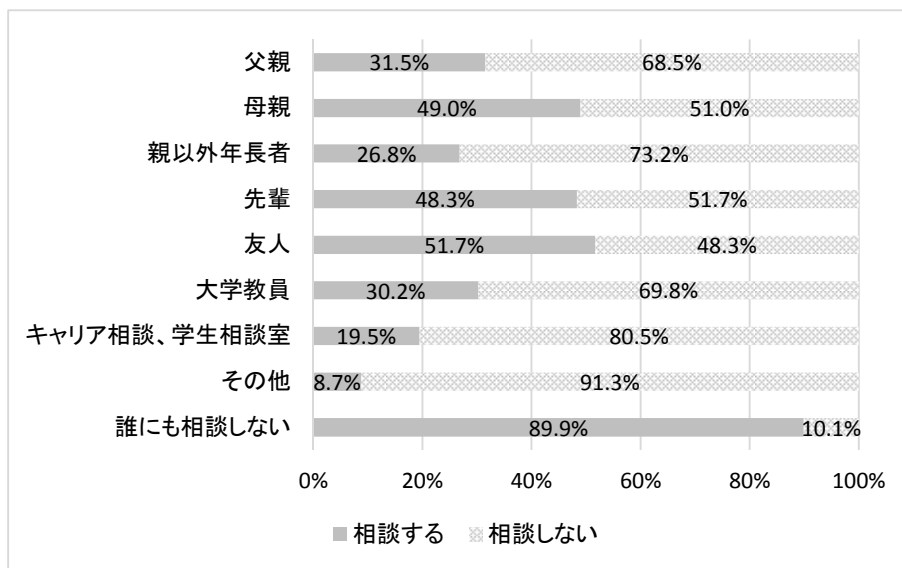
学生が就職・進学などの進路についての相談誰にしているか、について父親、母親、親以外の年長者（祖父母、兄弟、親類、知人など）、先輩、友人、大学の教員、大学の相談窓口（キャリア相談、学生相談室など）から選んでもらい回答を得た。

学部生の結果を図表 2-9 に示す。学部生では、最も多い相談相手が「母親」71.2%、次いで「友人」49.3%、「父親」48.1%である。大学関連では「大学教員」が 17.0%、「キャリア相談・学生相談室」は 13.3%となっている。「誰にも相談しない」と回答した学生は 6.0%であった。この結果からは、学部生にとって第一の相談相手は母親もしくは父親であること、次いで友人とつづき、自分を良く知り信頼のおける人を進路の相談相手としていることが明らかになった。そして学生支援としての教員やキャリア相談・学生相談の利用は 1～2 割以内となっている。



図表 2-9.就職・進学などの進路を相談する相手（学部生 N=566）

次に修士院生の結果を図表 2-10 に示す。修士院生では、最も多い相談相手が「友人」51.7%、次いで「母親」49.0%、「先輩」48.3%である。学部生とは異なり、「父親」は 31.5%であった。大学関連では「大学教員」が 30.2%と学部生と比較して 2 倍の割合となっている。「キャリア相談・学生相談室」は 19.5%と学部生の割合よりも多い。「誰にも相談しない」と回答した修士院生は 10.1%であった。これらの結果から、修士院生にとっての主な相談相手は友人や母親、先輩であり、さらに大学教員とキャリア相談・学生相談なども相談先としている人が 2～3 割程度見受けられた。



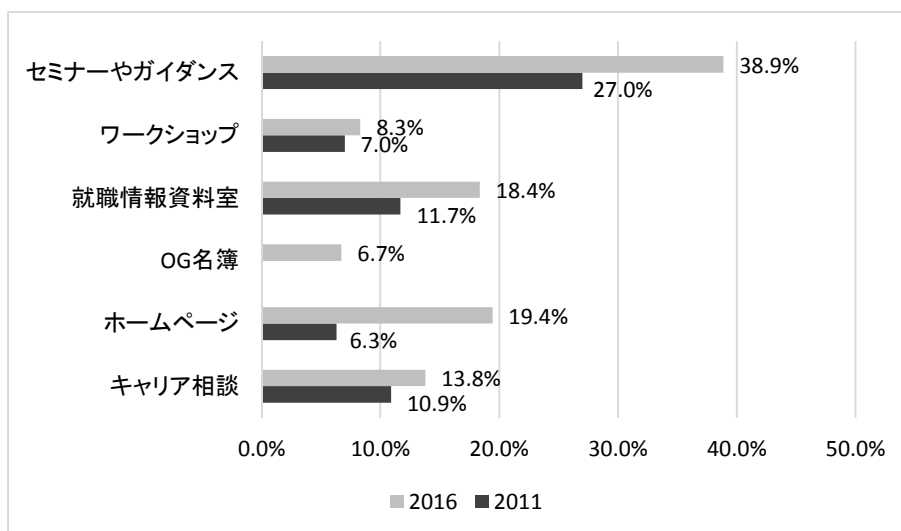
図表 2-10. 就職・進学などの進路を相談する相手 (修士院生 N=149)

(3) キャリア支援の利用状況と学生の評価

学生・キャリア支援センターでは、学部生および大学院生を対象に年間を通じてさまざまなキャリア支援活動を実施し、多数の学生が利用をしている。ここでは、学生・キャリア支援センターが実施するキャリア支援の利用の有無を尋ね、さらに利用したことがある場合には、参加学生がどの程度役に立つと思っているかを尋ねた。各キャリア支援活動の「役立ち度」は、「5. とても役に立った」「4. まあまあ役に立った」「3. どちらともいえない」「2. あまり役に立たなかった」「1. まったく役に立たなかった」から選択の上、回答を得た。

図表 2-11 では、2011 年に実施したキャリア意識調査と今回の調査結果の比較を示す。学部生が「利用した」と回答したキャリア支援の利用状況である。

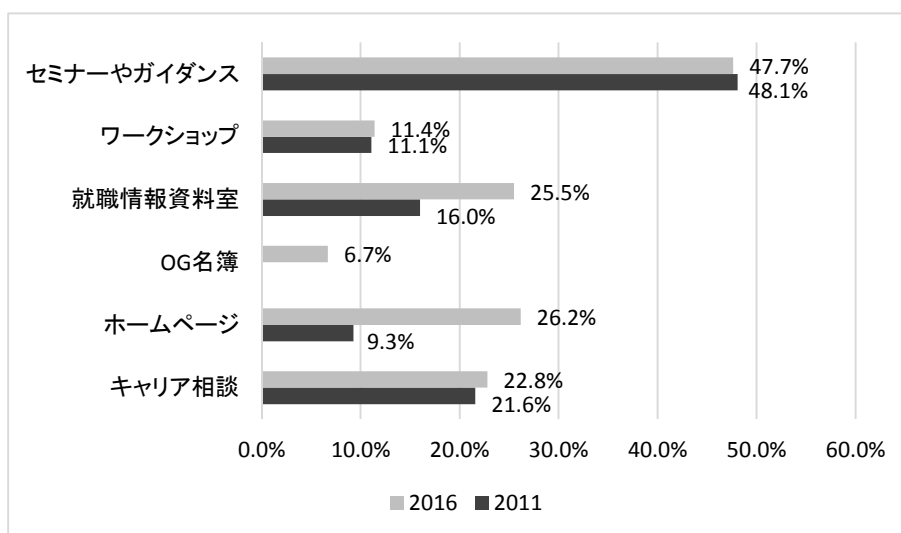
2017 年の調査結果を見ると、「セミナーやガイダンス」を利用したことのある学部生は 38.9%、次いで「ホームページ (の閲覧)」19.4%、「就職情報資料室」18.4%、「キャリア相談」13.8%であった。セミナーやガイダンスは約 4 割の学生は参加した経験があるが、このような行事では、学生数に対して参加学生数が多く見受けられるのがお茶の水女子大学の特徴であり、キャリア関連の情報収集に熱心であることが推察される。次に、ホームページの閲覧や就職情報資料室の活用は約 2 割程度である。2011 年の調査結果と比較をすると、いずれの項目においても利用する割合は増加している。分析対象者数などが異なるため結果の解釈には注意が必要であるものの、本学でのキャリア支援活動が学生に浸透しつつあることが推察される。



図表 2-11. キャリア支援の利用状況（学部生 2016 年 N=566、2011 年 N=2091）

続いて図表 2-12 に修士院生を対象にし、2011 年調査との比較した結果を示す。修士院生の 2016 年の調査結果では、「セミナーやガイダンス」を利用したことのある院生は 47.7%、次いで「ホームページ（の閲覧）」26.2%、「就職情報資料室」25.5%、「キャリア相談」22.8%であった。学部生と比較すると、総じて利用率は上回り、修士院生の場合は就職をより意識してキャリア支援を利用していることがうかがえる。

次に 2016 年と 2011 年との比較について、修士院生は学部生とは異なり、キャリア支援の利用状況は「セミナーやガイダンス」「ワークショップ」「キャリア相談」ではあまり利用率に違いはない。一方ホームページおよび就職情報資料室については、2016 年は 2011 年に比べて 10 ポイント以上も利用率が多い結果となった。

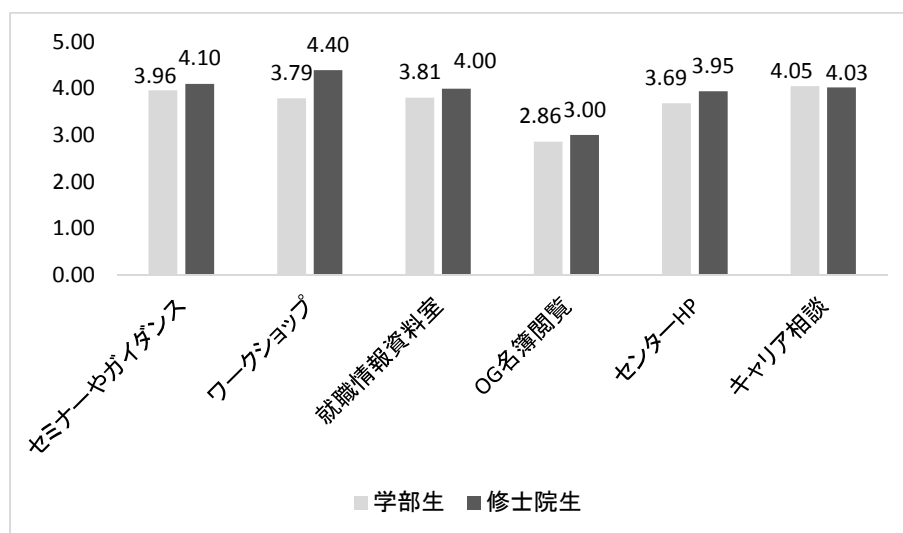


図表 2-12. キャリア支援の利用状況（修士院生 2016 年 N=149、2011 年 N=546）

次に 2016 年調査項目において学生は利用したキャリア支援について役立ち度として尋ねた結果を図表 2-13 に示す。役立ち度として「とても役にたった」5点、「まあまあ役に立った」4点、「どちらともいえない」3点、「あまり役に立たなかった」2点、「まったく役に立たなかった」1点としてあてはまる数字を1つ選んでもらった。

セミナーやガイダンスについて、学部生 3.96 点、修士院生 4.10 点であった。「まあまあ役に立った」に近く、修士院生のほうが学部院生よりも役立つと評価している。ワークショップは、学部生 3.79 点、修士院生 4.40 点であった。学部生からは「まあまあ役に立った」と「どちらともいえない」の間の評価を受け、修士院生からは「とても役にたった」と「まあまあ役に立った」の間での評価である。就職情報資料室については、学部生 3.81 点、修士院生 4.00 点、OG 名簿閲覧は学部生 3.81 点、修士院生 4.00 点、センターHP については学部生 3.69 点、修士院生 3.95 点である。これらの結果に共通しているのは、学生からの評価の大半は「まあまあ役に立つ」ということであり、学部生よりも修士院生のほうがより役立つと肯定的な評価をしている。

この結果からは、学部生に比べて修士院生のほうが、大学が提供するキャリア支援の重要性と支援活動のありがたみを理解しているためであることが推察される。



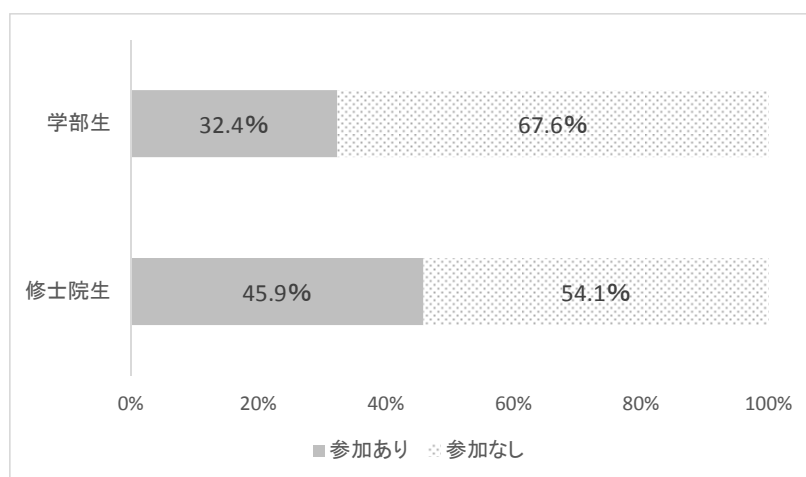
図表 2-13. キャリア支援の役立ち度

第3章 「インターンシップ」

1. インターンシップへの参加経験

学生全体のインターンシップへの参加経験を把握するために「大学に入学してから現在までの間にインターンシップに参加したことがありますか」として尋ねた。図表 3-1 に学部生・修士院生別の集計結果を示す。

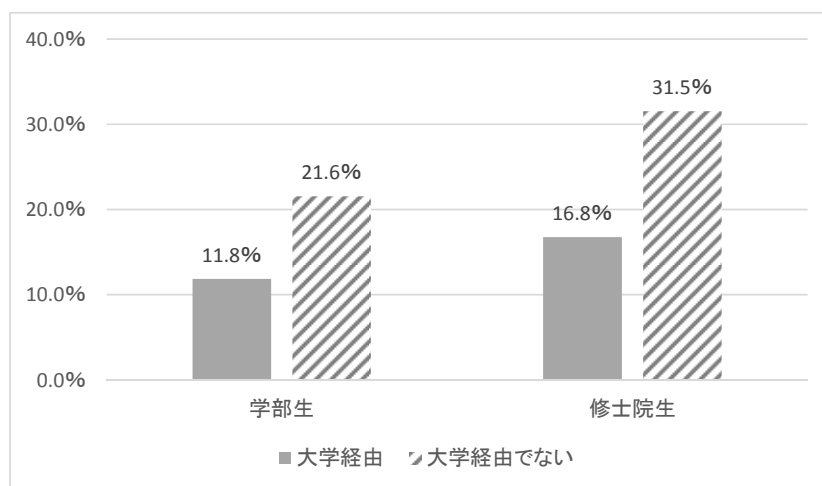
学部生でインターンシップに参加経験がある学生は 32.4%、修士院生では 45.9%である。『平成 27 年度大学等におけるインターンシップの実施状況について』(文部科学省 2017)によると、学部生では平成 27 年度のインターンシップへの参加率は 22.0%であった。本学で実施した調査はこれまでインターンシップに参加した経験を尋ねているため、この数値とは比較できないが、全国平均の数値に近い参加率ではないかと推察される。



図表 3-1. インターンシップへの参加経験

2. インターンシップの応募方法

次に、インターンシップに参加した経験がある学生だけを対象に、応募方法について複数回答可として尋ねた結果を図3-2に示す。大学経由の応募は学部生では11.8%、修士院生では21.6%である。大学経由でない応募は、学部生では16.8%、修士院生では31.5%と大学を経由しない応募の割合が大学を経由する2倍程度と多い。この傾向は、多くの大学等でも同様である。

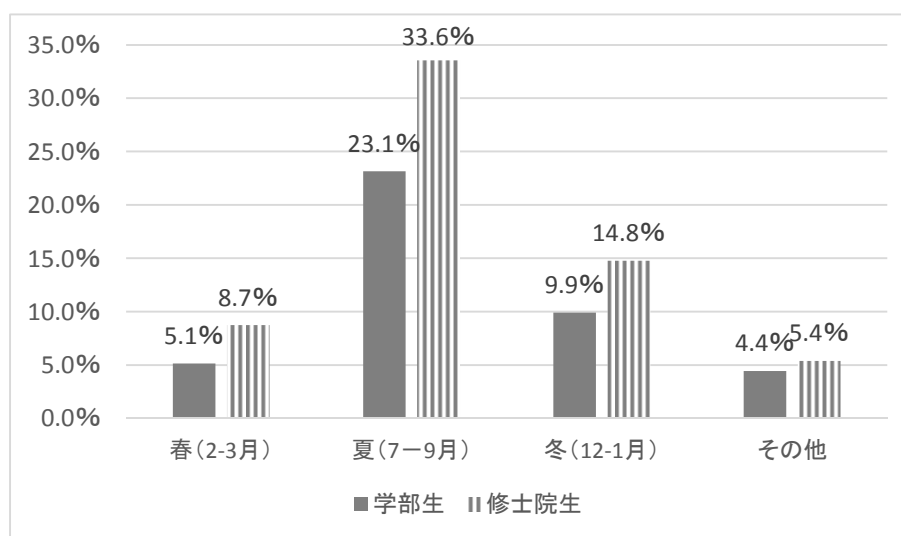


図表 3-2. インターンシップへの応募方法

3. インターンシップへの参加時期と期間

(1) 参加時期

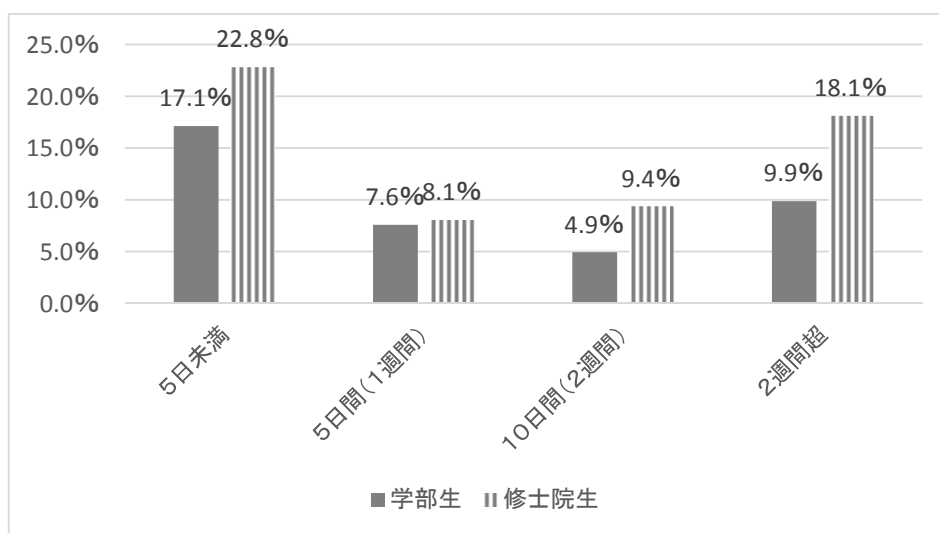
次に、学生がインターンシップに参加した時期について、春(2-3月)、夏(7-9月)、冬(12-1月)、その他として複数回答可として尋ねた。結果を図表3-3に示す。学部生、修士院生ともに夏(7-9月)の夏季休業時にインターンシップに参加する人が多く、学部生で23.1%、修士院生で33.6%であった。次いで、冬(12-1月)、春(2-3月)と続いている。



図表 3-3. インターンシップに参加した時期 (複数回答可)

(2) 参加期間

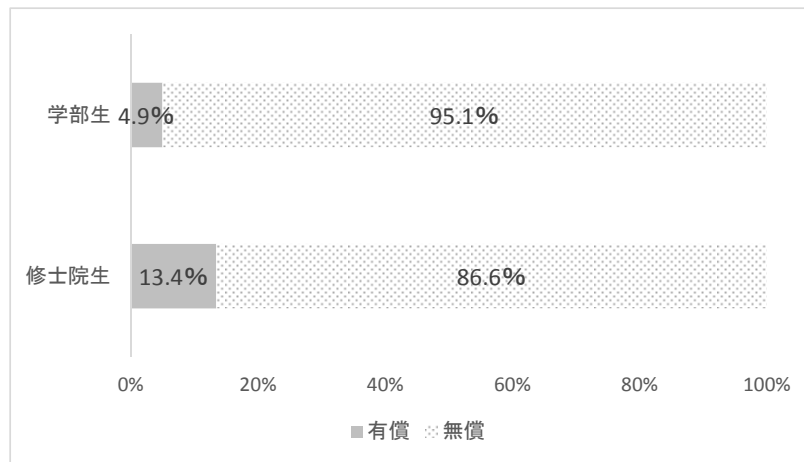
参加期間について、近年は企業側が採用活動を視野に入れたワンデーでのインターンシップが増加している。ここでは、インターンシップに参加した期間について複数回答可として尋ねた。図表 3-4 に結果を示す。学部生、修士院生ともにワンデーを含む 5 日未満で参加した割合が最も多く、学部生で 17.1%、修士院生で 22.8%とインターンシップ参加者の約 2 割が一度は 5 日未満のインターンに参加している。次いで多いのが 2 週間を超える期間であり、特に修士院生が多く見られる。これは研究インターンシップや業務に入る場合には長期に及ぶことが多いためである。5 日間と 10 日間はそれぞれ 1 割に満たないが両者を合わせると、学部生では 1 割を超え、修士院生では 2 割弱となる。この結果から、短期のインターンシップ参加は学部生・修士院生ともにそれぞれ 2 割程度見られる。インターンシップとしての本来の就業体験ができていない学生はそれより少なく、学部生で 1 割程度、修士院生では 2 割弱であることが明らかになった。



図表 3-4. インターンシップに参加した期間 (複数回答可)

(3) インターンシップでの報酬の支給

次に、インターンシップを体験したことがある学生を対象に、報酬の有無を尋ねた結果を図表 3-5 に示す。交通費や食費を含まずに有償であったと回答した学生は学部生 4.9%、修士院生は 13.4%である。前出の『平成 27 年度大学等におけるインターンシップの実施状況について』(文部科学省 2017)によると、学部生で報酬があったと回答した学生は 3.5%であり、大学院生では 10.5%である。これと比較するとインターンシップに参加して報酬を支給される学生の割合は全国平均に比べてやや多い。



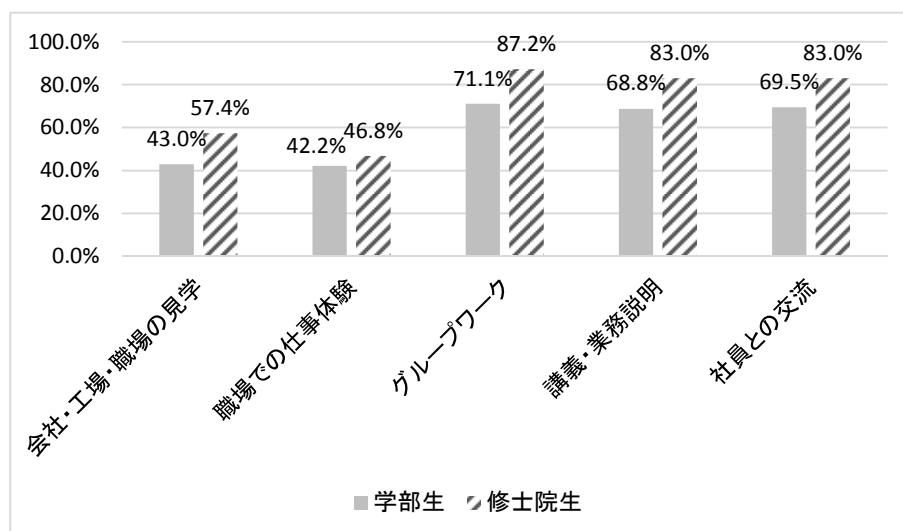
図表 3-5. インターンシップ参加への報酬の支給

(4) インターンシップで経験した内容

民間企業へのインターンシップで経験した内容について、「会社・工場・職場見学」「小職場での仕事体験」「グループワーク」「講義・業務説明」「社員との交流」から複数回答として選んでもらい回答を得た。結果を図表 3-6 に示す。

学部生で最も多い内容は「グループワーク」71.1%であり、「社員との交流」69.5%、「講義・業務説明」68.8%と続いている。企業が採用選考時の参考にすると言われている1～2日程度のワンデーインターンシップではグループディスカッションやプレゼンテーションなどが頻繁に行われている。この調査結果はこのことをよく表している。そして、本来の職業体験としての「職場での仕事体験」は42.2%であった。

修士院生でも同様の傾向であり、「グループワーク」87.2%、「社員との交流」83.0%、「講義・業務説明」83.0%と続いている。「職場での仕事体験」は46.8%とほぼ半数となっているが、大学院のインターンでは研究インターンシップが含まれるため職業体験の割合が多くなるようである。



図表 3-6. インターンシップで経験した内容（複数回答）

第4章 キャリア意識

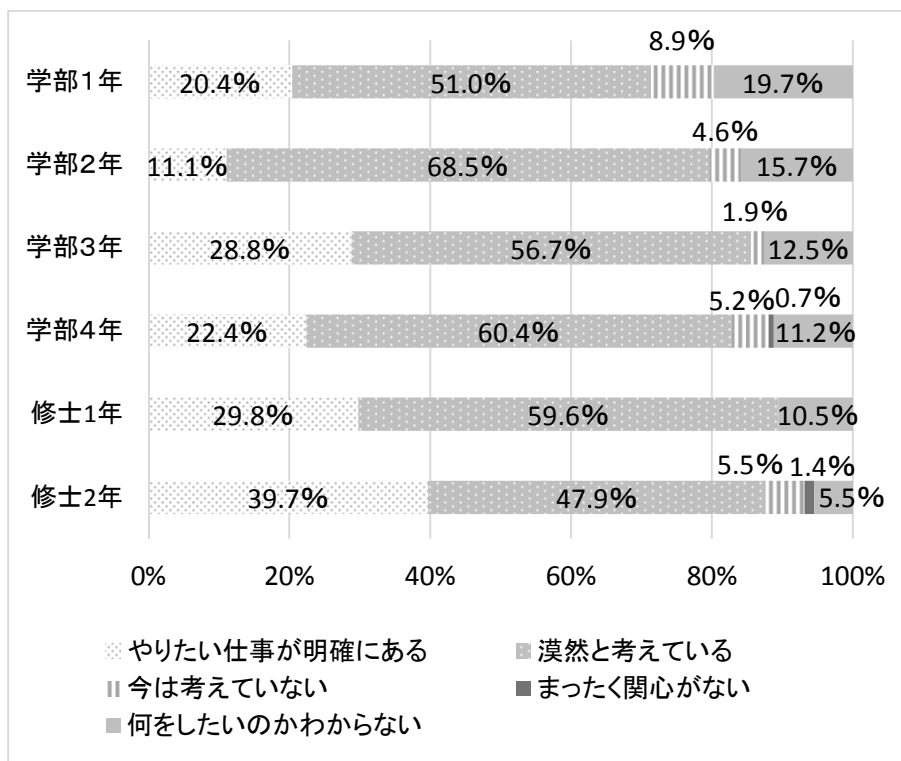
1. 将来の職業をどのように考えているか

学生が将来の職業やキャリアについてどのように考えているのか、について「あなたは自分の将来の職業などのキャリアについて、どのように考えていますか」として選択肢からひとつだけ選んでもらい回答を得た。学年別の集計結果を図表 4-1 に示す。

すべての学年を通じて「漠然と考えている」という回答が最も多く、いずれの学年も 5～6 割がそのように回答している。「やりたい仕事がある」は、学部 1 年生 20.4%、2 年生 11.1%、3 年生 28.8%、4 年生 22.4% でありいずれの学年も 2 割程度である。

修士院生では、「やりたい仕事がある」は修士 1 年 29.8%、修士 2 年 39.7% と学部生に比べて職業に対する意識が明確にあることが明らかになった。

「何をしたらいいのかわからない」と回答した割合は、学部 1 年生では 19.7% である。この項目は学年が上位になるにつれて割合が少なくなり、漠然とではあるものの次第に職業およびやりたいことというものが意識化されてくることが推察された。平成 23 年度に実施した調査結果も同様の傾向であった。



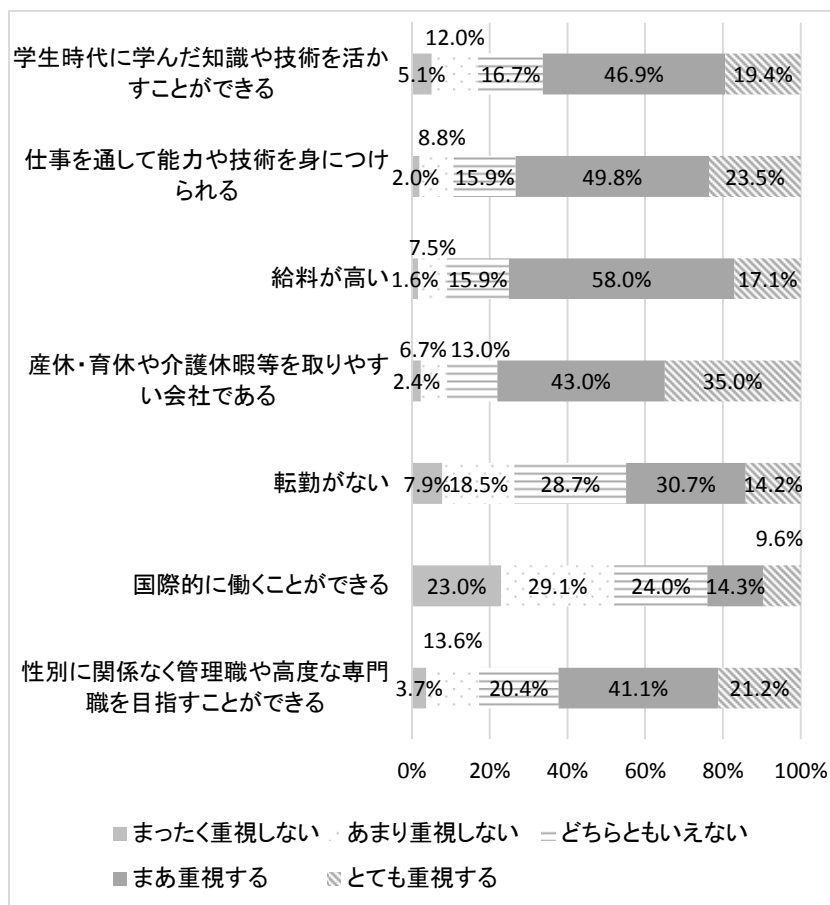
図表 4-1. 将来の職業などのキャリアについての考え

2. 就職先を決定する際に重視すること

「あなたは就職先を決めるときに、次のどのようなことを重視しますか」として、「給与」など7項目について尋ねた。はじめに学部生の結果を図表4-2に示す。

学部生が就職先を決定する際に重視することとして「産休・育休や介護休暇等を取りやすい会社である」が、「とても重視する」35.0%、「まあ重視する」43.0%を合わせると78.0%と約8割以上の学生が出産や育児、介護の際に休業を取得しやすい職場環境を重視していることが明らかとなった。次いで「給料が高い」が（「とても重視する」と「まあ重視する」の合計）75.1%、「仕事を通して能力や技術が身につけられるから」（「とても重視する」と「まあ重視する」の合計）73.3%である。この結果から、本学の学生が就職活動の際に重視することとして、女性が産休や育休などを取得しても働きやすいこと、給料が高いこと、仕事を通じてスキル・アップができることなどが上位であることが明らかとなった。

平成23年度の調査結果では、「産休・育休や介護休暇等を取りやすい会社である」は、「とても重視する」は47%、「まあ重視する」は42%であったことから約9割程度の学生が重要視していたが、今回はこの項目を重要視する学生が少ない割合となった。特に「とても重視する」と回答した割合は、本調査は平成23年度調査よりも10ポイントほど少ない。また「給料が高い」は、平成23年度調査と今回調査は同程度、「仕事を通して能力や技術が身につけられるから」は今回調査のほうが13ポイント程度多い割合で重要視していることが明らかとなった。

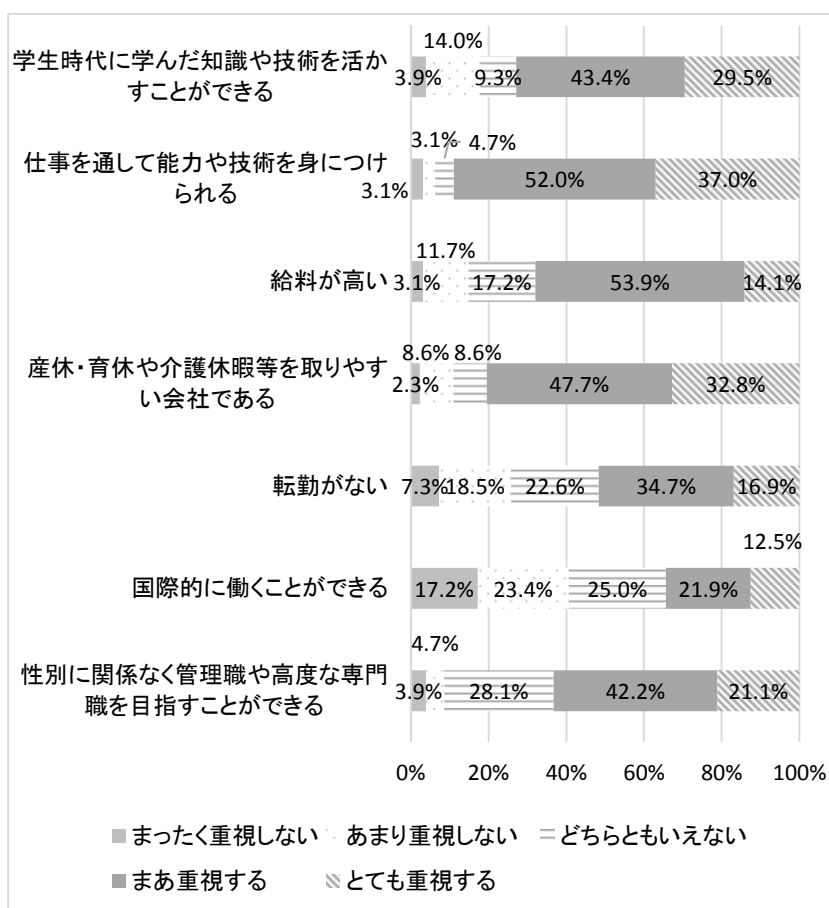


図表4-2.就職の際に重視すること（学部生）

次に修士院生の結果を図表 4-3 に示す。修士院生が就職先を決定する際に、重視する人が多い項目は「仕事を通して能力や技術が身につけられるから」であり、「とても重視する」37.0%、「まあ重視する」52.0%を合わせると89.0%と約9割の院生が重要視していることが示された。次いで、「産休・育休や介護休暇等を取りやすい会社である」が「とても重視する」32.8%、「まあ重視する」47.7%と約8割の院生が重要視している。

学部生よりも重視する割合が多い項目は、「学生時代に学んだ知識や技術を活かすことができる」（「とても重視する」と「まあ重視する」の合計）72.9%（学部生 66.3%）、「国際的に働くことができる」（「とても重視する」と「まあ重視する」の合計）34.4%（学部生 23.9%）である。この結果から修士院生は、大学院で学んだことをキャリアに活かし、また国際的に働くことを重視する割合が学部生より多いことが示唆された。

平成 23 年度調査結果との比較では、「仕事を通して能力や技術が身につけられるから」は、「とても重視する」は21%、「まあ重視する」は48%であったことから約7割程度の学生がこの項目を重要視していたが、今回はこの項目を重要視する学生が多い割合となり、就職後もスキル・アップを目指す院生の割合が多くなったことが推察された。



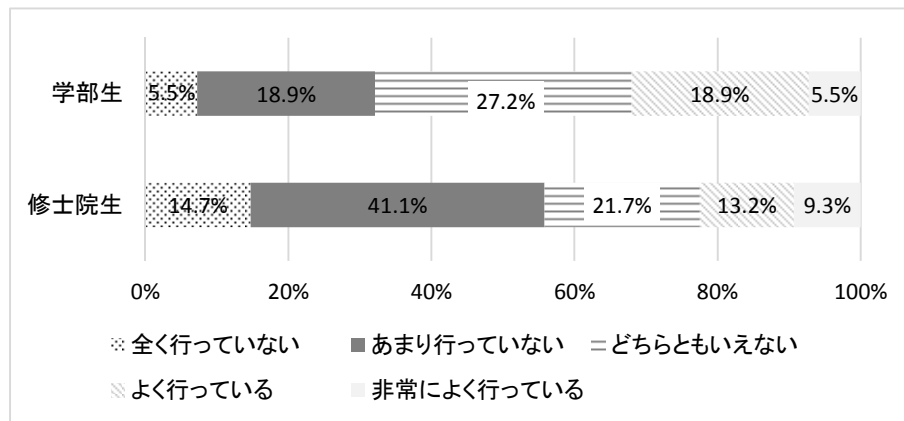
図表 4-3.就職の際に重視すること（修士院生）

3. 自己分析や情報収集に関すること

今回の調査から新たな調査内容として、キャリアを考える際に行う自己分析や情報収集について、学生がどの程度行っているかという質問項目を設けた。具体的には、「本や雑誌、インターネットでの検索」など7項目について「全く行っていない」から「非常に良く行っている」までの5件法で回答を得た。以下に主要5項目についての結果を示す。

(1) 本や雑誌、インターネットでの情報収集

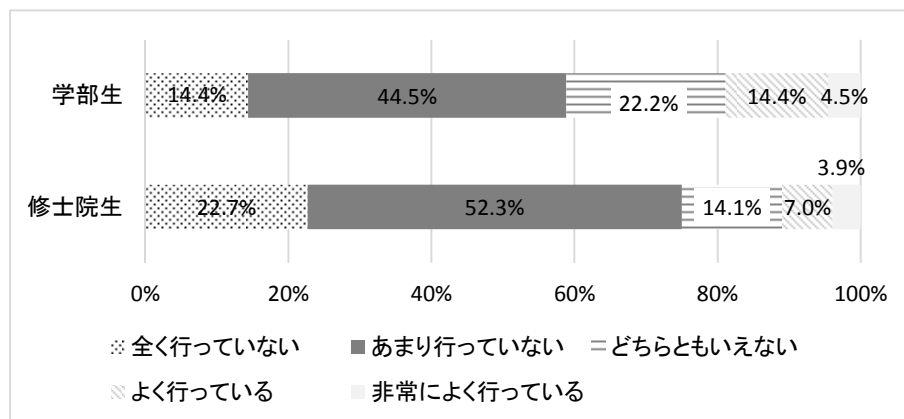
はじめに「本や雑誌、インターネットなどで仕事や働くことに関連する記事を読む」についての結果を図表4-4に示す。学部生では、「非常によく行っている」5.5%、「よく行っている」18.9%と約25%が行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」9.3%、「よく行っている」13.2%と約23%が行っている。全体的に約2割程度の学生がキャリアに関する情報収集をよく行っているようである。



図表4-4. 「本や雑誌、インターネットなどで仕事に関する記事を読む」

(2) 身近な方から仕事について話を聴く

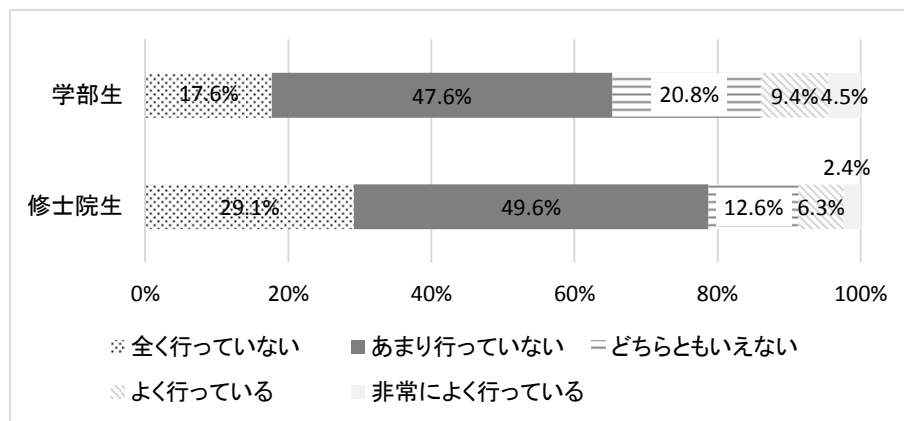
次に、「将来の仕事について友人や先輩、家族などから話を聴く」についての結果を図表4-5に示す。学部生では、「非常によく行っている」4.5%、「よく行っている」14.4%と18.9%が行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」3.9%、「よく行っている」7.0%と約11%が行っている。



図表4-5. 「将来の仕事について友人や先輩、家族などから話を聴く」

(3) 自分の長所や短所を考える

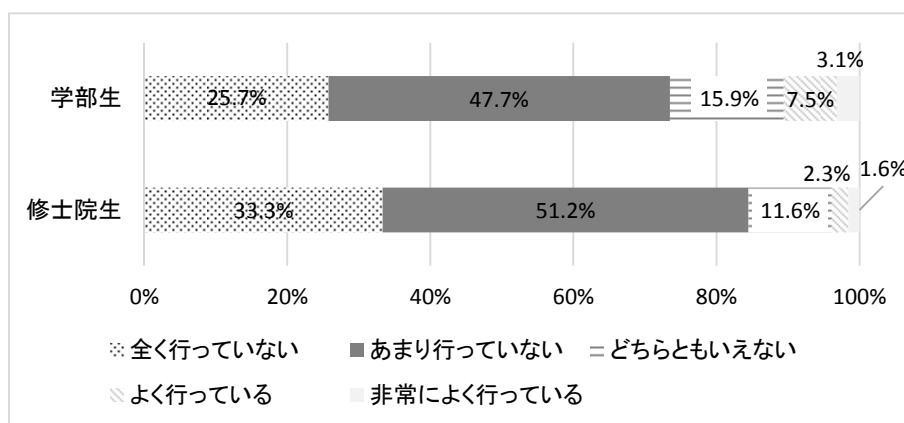
「自分の長所や短所を考えてみる」についての結果を図表 4-6 に示す。学部生では、「非常によく行っている」4.5%、「よく行っている」9.4%と合わせて約 14%がよく行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」2.4%、「よく行っている」6.3%を合わせると約 9%がよく行っているが、学部生が行う割合よりも少ない。



図表 4-6. 「自分の長所や短所を考えてみる」

(4) 自分の生き方を想像する

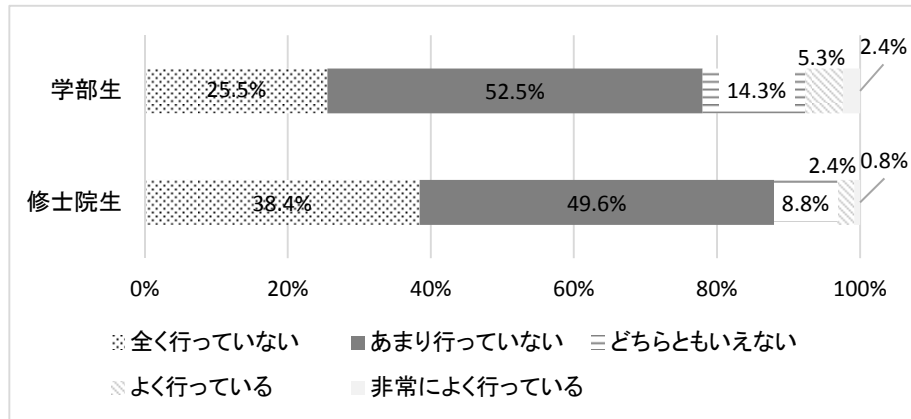
「これからの自分の生き方について想像してみる」についての結果を図表 4-7 に示す。学部生では、「非常によく行っている」3.1%、「よく行っている」7.5%を合わせると約 11%がよく行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」1.6%、「よく行っている」2.3%と約 4%の院生がよく行っていると回答したが、その割合は学部生の半分程度である。



図表 4-7. 「これからの自分の生き方について想像してみる」

(5) 自分が好きなこと、得意なことを考えてみる

「自分が好きなこと、得意なことを考えてみる」という質問に対する結果を図表 4-8 に示す。学部生では、「非常によく行っている」2.4%、「よく行っている」5.3%を合わせると約 8%がよく行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」0.8%、「よく行っている」2.4%と約 3%の院生がよく行っているが、この項目も学部生の半分の割合であった。



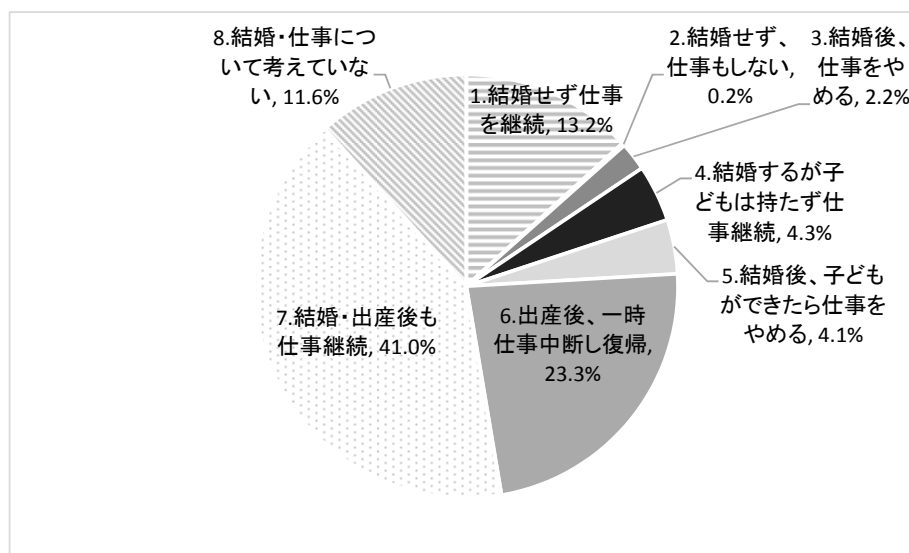
図表 4-8. 「自分が好きなこと、得意なことを考えてみる」

4. ライフコースの考え方：将来の結婚と仕事への価値観

将来の結婚と仕事に対する考え方について「将来の結婚と仕事への考え方について、あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください」として「1. 結婚せず、仕事をずっと続ける」「2. 結婚せず、仕事もしない」「3. 結婚したら仕事をやめる」「4. 結婚するが子どもはもたず、仕事をずっと続ける」「5. 結婚して子どもができたら仕事をやめる」「6. 結婚して子どもができたら仕事を一旦やめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」「7. 結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」「8. 結婚や仕事について、まだ考えていない」の8項目から回答を得た。

(1) 学部生

学部生についての結果を図表 4-9 に示す。最も多いのは「7. 結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」41.0%であった。平成 22 年調査でも 42.5%と同様に高い割合であった（お茶の水女子大学 2012）。次いで、「6. 結婚して子どもができたら仕事を一旦やめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」23.3%であり、平成 22 年調査でも 26.8%と同様の傾向にあった。今回の調査で多かった回答は「1. 結婚せず、仕事をずっと続ける」13.2%であり、平成 22 年調査での 2.4%と比べると結婚を望まない学部生の割合は増加している。現代の女性の未婚化、非婚化を表していることがうかがえる。そして「3. 結婚したら仕事をやめる」は 2.2%であり、平成 22 年調査での 13.8%と比べると圧倒的に少ない割合であり、学生が伝統的な性別役割分業を支持しなくなっていることが推察された。

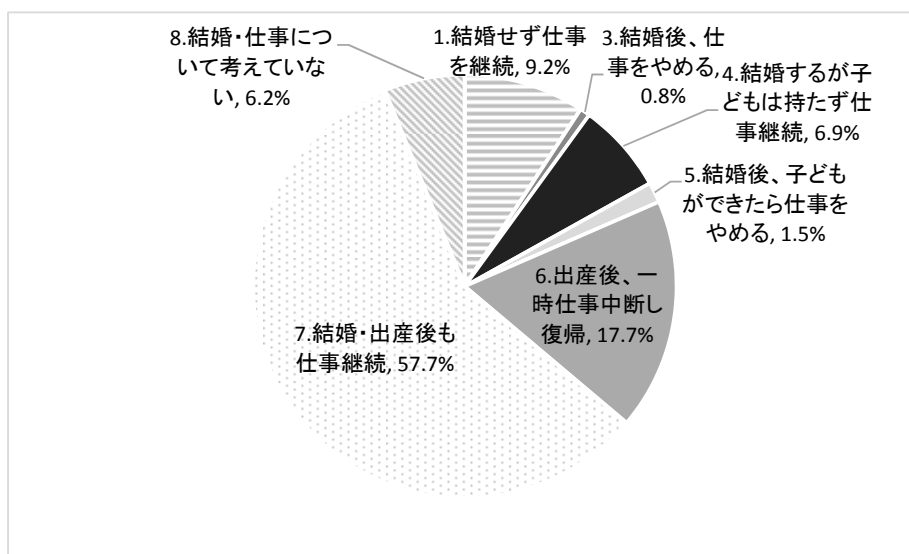


図表 4-9.結婚と仕事への価値観（学部生）

(2) 修士院生

修士院生についての結果を図表 4-10 に示す。最も多いのは学部生同様「7. 結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」57.7%であり、約 6 割がこのように考え、これは平成 22 年調査と同じ傾向であった（お茶の水女子大学 2012）。次いで、「6. 結婚して子ど

もができれば仕事を一旦やめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」17.7%であり、平成22年調査22.4%よりもやや少ない割合である。修士院生の回答では、「4. 結婚するが子どもはもたず、仕事をずっと続ける」が6.9%であり、学部生4.3%および平成22年調査1.9%と比べて多い割合であることが特徴である。この結果は、今回の修士院生が学部生や過去調査と比べて、結婚は望むが子どもを望まない割合が多いことが示しているが、現代の共働きの母親のキャリア形成が難しいことを反映している可能性があるのではないだろうか。一方で「3. 結婚したら仕事をやめる」はわずか0.8%であり、平成22年調査での9.9%と比べると圧倒的に少なく、学部生と同様の傾向であった。



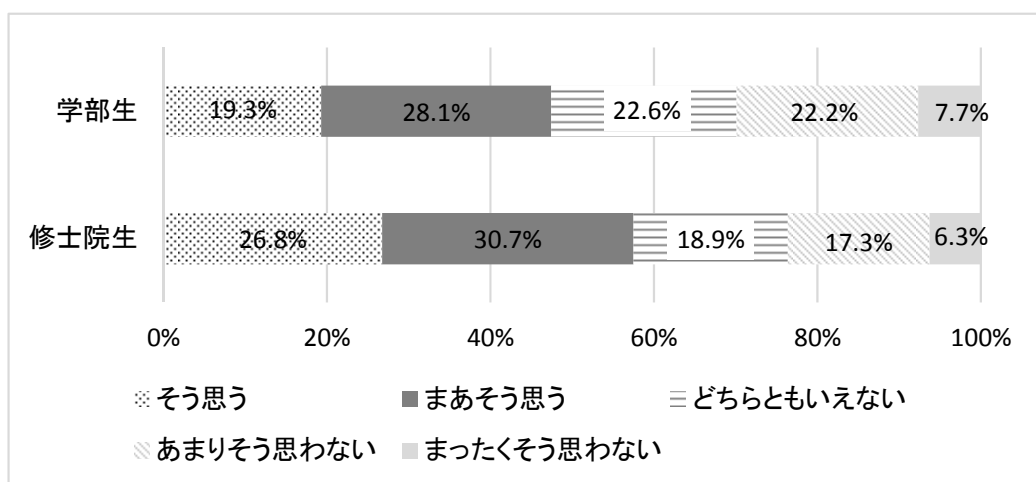
図表 4-10.結婚と仕事への価値観（修士院生）

5. 性別役割分業意識

性別役割分業意識について、「結婚後の家族における男女の役割と仕事への考えについて、あなたの考えにもっとも近い数字を1つ選んでください。」として、「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたず、育児に専念すべきである」「経済的に家族を支えるのは夫の役割である」「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」「妻も仕事と自分の収入をもつべきである」の4項目について、「そう思う」から「まったくそう思わない」の5件法で回答を得た。結果を図表4-11～14に示す。

(1) 「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたず育児に専念すべき」

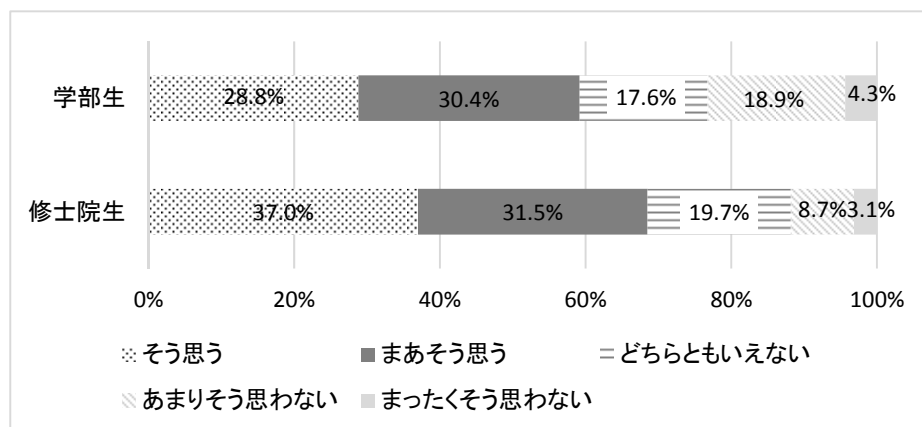
「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたず、育児に専念すべきである」という質問に対する結果を図表4-11に示す。学部生では、「そう思う」19.3%、「まあそう思う」28.1%を合わせると47.4%と約半数がこれに賛成している。修士院生では、「そう思う」26.8%、「まあそう思う」30.7%を合わせると57.5%と約6割がこれに賛成している。本学の学生は、キャリア形成に対する意識が高いことが他の項目で示唆されているが、この項目では、家族においては伝統的な役割を支持する人が多いことが明らかになった。さらに学部生よりも修士院生の方がその傾向は強い。



図表 4-11. 「子どもが3歳までは、母親は育児に専念」

(2) 「経済的に家族を支えるのは夫の役割」

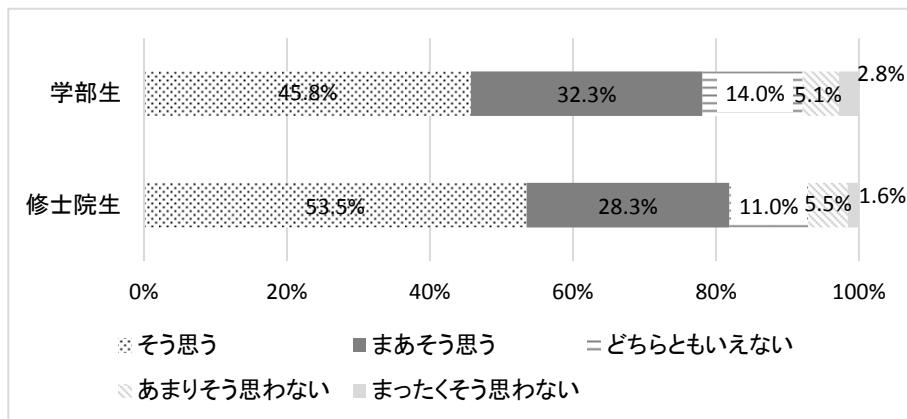
「経済的に家族を支えるのは夫の役割である」についての結果を図表 4-12 に示す。学部生では、「そう思う」28.8%、「まあそう思う」30.4%を合わせると 59.2%と約 6 割がこれに賛成している。修士院生では、「そう思う」37.0%、「まあそう思う」31.5%を合わせると 68.5%と約 7 割がこれに賛成している。(1)の項目と同様に、学部生も修士院生も伝統的な性別役割を支持する人が多い。他の項目によれば、結婚後も就業を継続する意識が高いが、自身に収入があっても家族における稼得役割は夫と考えていることが明らかになった。



図表 4-12. 「経済的に家族を支えるのは夫の役割」

(3) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」

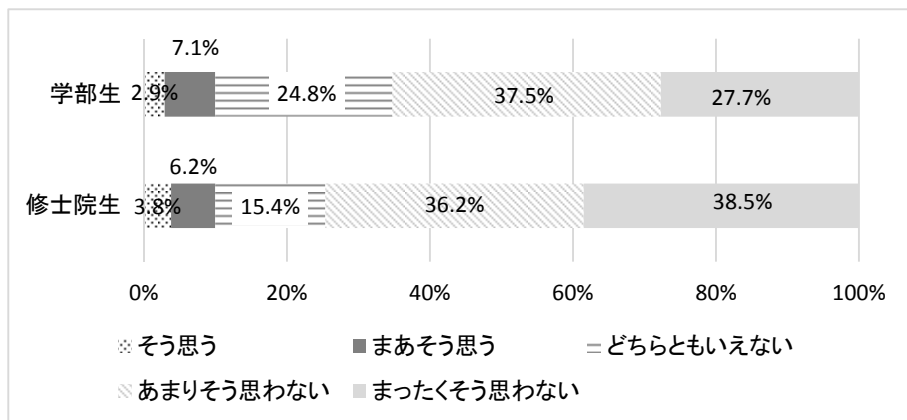
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」についての結果を図表 4-13 に示す。学部生では、「そう思う」45.8%、「まあそう思う」32.3%を合わせると 78.1%と約 8 割がこれに賛成している。修士院生では、「そう思う」53.5%、「まあそう思う」28.3%を合わせると 81.8%と学部生と同様に約 8 割がこれに賛成している。学部生も修士院生もこの項目が示す伝統的な性別役割分業を支持する割合が前の項目よりも多い。



図表 4-13. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」

(4) 「妻も仕事と自分の収入をもつべき」

最後に「妻も仕事と自分の収入をもつべきである」についての結果を図表 4-14 に示す。学部生では、「そう思う」2.9%、「まあそう思う」7.1%を合わせると 10.0%と 1 割の学生だけがこれに賛成している。修士院生でも傾向は同じで、「そう思う」3.8%、「まあそう思う」6.2%を合わせて 10.0%と 1 割がこれに賛成している。学部生も修士院生も仕事を続けたいという意識はあるものの、妻として自身の仕事と収入をもつということの実感が伴わないために、このような回答傾向になっていることが推察された。



図表 4-14. 「妻も仕事と自分の収入をもつべき」

第5章 考察とキャリア教育・キャリア支援における今後の課題

本章では、これまでの調査結果の考察を行うとともに、これに基づいたお茶の水女子大学におけるキャリア教育・キャリア支援における今後の課題を提言する。

1. キャリア教育

(1) キャリアデザインプログラム

2011年から導入された「キャリアデザインプログラム」は、「女性リーダーのためのコンピテンシー開発」を実現することを目的として基幹科目群を中心に導入された。平成29年1月に実施した本調査の結果によると、キャリアデザインプログラム基幹科目を1科目でも受講したことがある割合は、学部生46.1%、修士院生47.0%とほぼ半数が1科目以上のキャリアデザインプログラムを受講している。また受講した科目数では、学部生では最大7科目、修士院生でも最大3科目を受講している。

そして、キャリアデザインプログラム基幹科目に対する学生の評価として、約6割以上の学生は受講を通じて「自分の将来や大学時代の過ごし方を考える」ようになったと回答している。さらに「自己理解を深めた」とする学生も半数を占める。しかしながら「進路選択・就職活動」にはあまり役に立っていないと評価されている。

これらの結果からは次の2点が示唆された。第一は、キャリアデザインプログラム基幹科目が導入から7年の間に、学生の間に着実に浸透していることである。約半数の学生がひとつでも受講していることから、知名度も上がっていることをうかがうことができる。そして普段でも授業の評価が学生間で共有され、口コミなどで履修する姿も見受けられる。また、新入生オリエンテーションでのキャリアデザインプログラムの紹介や電子掲示板での広報なども効果があることが推察される。

第二は、受講を通じて、学生が「自分の将来や大学時代の過ごし方を考える」ようになり、「自己理解を深める」など、キャリア行動に役立つという肯定的な評価をしていることである。キャリアデザインプログラム基幹科目は、導入時より「役に立つ」という学生の評価はあったが、7年を経過して行った調査でも安定してよい評価を得ている。

今後の課題としては、受講者数のさらなる増加である。大学時代そして将来のキャリアデザインに役に立つことをオリエンテーションや広報媒体を通じて伝えること、また講義内容についても、受講者の感想や講師の工夫を取り入れて改善を行うことが課題である。

(2) キャリア意識

① 将来の仕事や就職先についての考え

4章で示したキャリア意識については、平成23年度調査と比較して結果を考察する。はじめに、「将来の職業についてどのように考えているか」については、平成23年度の調査結果と同様で、「やりたい仕事がある」と答えた学生は、学年が上がるにつれて割合は多くなる傾向にある。しかし5-6割は「漠然と考えている」という結果であった。

次に、「就職先を決定する際に重視すること」については、平成23年調査と今回では異なる点が見られた。ひとつが、「産休・育休や介護休暇がとりやすい会社」を重視する学生

は、今回は学部生 78%、修士院生 80.5%が重視すると回答したが、これは平成 23 年度調査と比べると 10 ポイント程度少なくなった。そして「仕事を通して能力や技術が身につけられる」を重視する学生は学部生、修士院生ともに割合が増えており、学部生で約 7 割、修士院生は約 9 割であった。この結果からは、お茶の水女子大学の学生が就職先を選ぶ理由として、産休・育休や介護休業などがとりやすいことは当たり前のこととして学生には認識されていること、また社会人としても仕事を通じた継続的なスキル・アップを目指していることが示唆された。

②結婚・出産と就業についての意識

次にライフコースの考え方については、結婚・出産を経ても仕事を継続したいとする学生が学部生 41%、修士院生 57.7%と平成 23 年度調査と同様の割合である。そして「結婚後に仕事を辞める」は平成 23 年度調査よりも 10 ポイント程度少ない割合となった。これらの結果からは、仕事を続けたいという意識を持つ人の割合は平成 23 年度調査に比べて増加していることが明らかになった。平成 23 年度から新入生を対象に実施している『新入生の生活に関する調査』によると、新入生の約 7 割前後は「結婚・出産を経ても仕事を辞めない」と回答している。今回の調査結果と合わせてみると、入学時よりも結婚・出産を経ても仕事を続けると考える学生の割合は入学時よりも増加していることが推察された。これは大学におけるキャリア教育も含むジェンダー教育によって、学生の就業継続への意識が高まったことが要因であることが考えられた。

このように、学生において就業を継続する意識が高まっている一方で、今回から新たに追加した「性別役割分業意識」については非常に伝統的な意識をもっていることも明らかになった。例えば「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」については、賛成する人が約 8 割となっている。この結果と前述の結婚・出産後も就業を継続すると答えた人が 4-5 割であることを考えると、結婚後も就業を継続するものの家事・子育ても女性が遂行すべきと考えていることが推察される。

キャリア意識に関連するキャリア教育における今後の課題としては 3 点が挙げられる。第一に、学生が将来働き続けたいという意志を持つことができるようなキャリア教育の継続である。第二は、将来の職業について漠然としている学生の割合が多いことに関して、自身の将来の仕事や進路に関する方向付けを意識できるような内容を、キャリア科目の中でも取り入れる必要があるということである。第三として、将来において家庭と仕事の二重負担にならないようなジェンダー教育のさらなる工夫が必要であることが考えられた。すでに授業ではこのような問題は取り上げられて、知識としては学生に浸透していると思われる。しかし今回の調査結果から見えた学生の意識を考察すると、結婚・出産後も就業継続を希望するものの、家庭内労働も伝統的な役割分担で行う意識があることが明らかになった。将来の仕事と家庭の二重負担を再生産しないためのキャリア教育を行うことが課題である。

2. インターンシップ

お茶の水女子大学の学生を対象にしたインターンシップに関する調査は見当たらず、その点において今回の調査結果は貴重である。はじめにインターンシップへの参加経験は、学部生では 32.4%、修士院生では 45.9%であり、参加率として全国調査と比較すると平均的からやや高い水準にあることが明らかになった。参加時期は 7～9 月の夏のインターンシップに参加する学生の割合が最も多く、次いで 12-1 月の冬のインターンシップである。

参加期間は複数回答で尋ねたが、ワンデーを含む 5 日未満が約 2 割程度、5 日間は 1 割弱、2 週間は学部生が約 5%、修士院生が約 9%、2 週間を超える期間は、学部生 9.9%、修士院生 18.1%であった。5 日以上インターンシップへの参加も学部生では 2 割程度にもなり、学部生が積極的に職業体験をしていることが明らかになった。お茶の水女子大学は地理的にも首都圏の企業でのインターンに参加しやすい環境があり、また学生向けに、数多くの企業などからの案内が来ること、さらに学生・キャリア支援センターが実施するインターンシップガイダンスなどでの説明もあることなどによって、学生の積極的な参加を促していることが推察される。

今後の課題としては、キャリア支援行事やキャリアデザインプログラム基幹科目などを通じて、学生がインターンシップに参加する目的を理解して参加できるよう、事前に説明し、理解を促すとともに意識付けをすることが重要である。そして、インターンシップ先の情報提供についても就職情報資料室を通じて、大学からも効果的に行うことが求められる。

3. キャリア支援

(1) 進路決定の時期

キャリア行動の調査結果（第2章2.）より、学生が自身の進路を大学生生活のどの時期に決定するのかが示された。学部生が進路を決めた時期として最も多かったのは「大学3年生頃」（31.5%）であり、次いで「大学入学前まで」（23.5%）であった。大学3年生は、学びにおいては、本学が1、2年次に受講を奨励する教養教育（リベラルアーツ）の履修を終え、より高度な専門教育へと移行する時期である。学生生活では、4年間の学生生活を半分終える時期であり、大学院進学や企業団体への就職など、卒業後の進路に関する情報探索を始めることから、「大学3年生頃」に進路を決める学生が多いと考えられる。一方で、「大学入学前まで」に自身の進路を決定した学生は、大学選びと学部学科の選択が卒業後の進路選択につながると考えて、本学への進学を決定したと推察される。また、修士院生の進路決定の時期については、「大学院前期課程1年生頃」が38.1%と最も多く、次いで「大学3年生頃」（18.7%）、「大学4年生頃」（14.2%）であった。修士院生は、専門性が高い教育を経て、進路決定に至ると考えられる。

以上のことから、学部生の学生を対象としたキャリア支援は、学年別のプログラムや、各自の学びに応じたプログラムを提供することにより、学生ひとりひとりの状況に合わせたキャリア支援になると期待される。例えば、新入生（学部1年生）を対象としたキャリア支援では知識や教養を身につける重要性を理解させ、学部3年生には大学の専門教育と社会とのつながりを考える機会を提供するなど、学生が進路を考えるタイミングに合わせてキャリア支援を実施する必要があると考える。また、修士院生の学生を対象としたキャリア支援は、学部生時代のキャリア支援を踏まえて、より高い専門教育を身につけた学生が、自身の専門性をどの領域で活かすことができるのかを明確に意識し、進路選択ができるキャリア支援が必要であろう。

(2) 進路の相談相手、キャリア支援の利用状況

キャリア行動の調査結果（第2章2.）より、学部生が自身の進路を相談するのは、「母親」（71.2%）と「父親」（48.1%）の家族と、「友人」（49.3%）であることが示された。修士院生の学生は、「友人」（51.7%）が最も多く、「母親」（49.0%）、「先輩」（48.3%）、「父親」（31.5%）であった。また、学部生と修士院生では、大学教員を相談相手に選ぶかどうかの違いがあることが示された（学部生17.0%、修士院生30.2%）。大学教員以外の大学内の相談相手として「キャリア相談、学生相談室」を利用する学部生は13.3%、修士院生は19.5%であることも示された。キャリア支援の利用状況については、学部生、修士院生ともに「セミナーやガイダンス」の参加が最も多かった（学部生38.9%、修士院生47.7%）。

これらの結果より、学部生と修士院生ともにセミナーやガイダンスを利用しているが、進路を相談する相手については、学部生は自分のこれまでの経験や性格などを理解してくれる身近な人を選び、修士院生の学生は身近な人に加えて、自分の専門性を理解している先輩や大学教員を相談相手に選ぶと考えられる。また、学部生、修士院生ともにキャリア支援を専門とするキャリア相談ではなく大学教員を相談相手として選ぶのは、キャリア相談の担当者よりも大学教員の方が自分のことを理解してくれると考えていると推察する。

以上により、キャリア支援において今後検討が必要と考えられる 2 点を挙げる。まず、学部生、修士院生ともに利用状況が高く示された「セミナーやガイダンス」の一層の充実を図ることが求められるであろう。すでに、学生・キャリア支援センターが実施するキャリア支援行事（セミナー、ガイダンス等）においては、学部生と修士院生の授業等に影響がないよう昼休みの時間帯（12:30 から 13:10）に実施している。また、すべてのキャリア支援行事で参加学生を対象にアンケートを実施して、講座内容と実施時期の満足度を尋ねるとともに、実施して欲しいキャリア・就職支援を自由記述で書かせている。学生・キャリア支援センターでは、このアンケート結果を参考にしているが、これまでセミナーやガイダンスに足を運ぶ機会がなかった学生のニーズを把握する機会がなかった。大学によるキャリア支援が、学部生や修士院生のキャリア行動を支える基盤となるために、セミナーやガイダンスに参加した学生に加えて、より多くの学生を対象としたアンケート等の実施を検討する必要があると考える。

2 点目は、本調査の結果より、学生が自身の進路を考えるときに身近な人が相談相手として選ばれており、多様な価値観や考え方に触れることや、進路選択において試行錯誤する機会が少ない可能性が示された。大学生が自らの進路を探索することは、これまでの経験と学びを結びつけるだけではなく、社会の活動のなかで求められる教養や知性、能力やスキル、将来の目標や夢など、様々な側面から探索する機会であり、この探索を経て、自分が納得する進路選択につながると考えられる。そのことを踏まえ、キャリア支援においては、キャリアの専門家がファシリテーターとなるワークショップをさらに活用して、参加学生同士がお互いの価値観の違いを知ることや、自身の目標や夢を再発見するなど、学生のキャリア探索の機会を提供することができると考える。

付表1 調査票

2016年キャリア意識調査

この調査は、お茶の水女子大学の学部生および博士前期課程大学院生を対象に、学生の皆さんのキャリア意識を把握することによって、それらを高めるためにどのような教育・支援の改善を行うべきかを検討することを目的としています。主な回答方法は選択式であり、回答時間は約15分です。ご回答いただいた内容は統計的に処理され、個人が特定されることはございません。そして答えたくない項目は無理にお答えいただかなくて構いません。

この調査の趣旨をご理解いただき、皆様のご協力をいただきたく、よろしくお願いたします。

I. 大学生活とキャリアデザインプログラム科目について

問1. はじめに、あなたの大学生活についておうかがいします。次にあげることはどのくらいあてはまると思われますか。あてはまる数字を1つ選んでください。

	質問項目	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1	学業（講義および研究など）に対してまじめに取り組んでいる	1	2	3	4	5
2	部活動・サークル活動などに熱心に参加している	1	2	3	4	5
3	アルバイトにまじめに取り組んでいる	1	2	3	4	5

問2. キャリアデザインプログラム基幹科目群で、受講中もしくは受講したことがある科目すべてにチェックをつけてください。（複数回答可）

- 1 「お茶の水女子大学論」
- 2 「女性リーダーへの道（入門編）」
- 3 「女性リーダーへの道（実践入門編）」
- 4 「女性リーダーへの道（ロールモデル入門編）」
- 5 「ことばと世界12 知能環境論」
- 6 「情報コミュニケーション技術と創発性」
- 7 「キャリアプランとライフプランⅠ」
- 8 「キャリアプランとライフプランⅡ」
- 9 「キャリアプランニング実習」
- 10 「働く女性の権利と地位」
- 11 「共生社会で働く」
- 12 「インターンシップ」「インターンシップ（大学院）」「インターンシップⅠ」
- 13 「インターンシップⅡ」（2016年新設）

問3. 受講したキャリアデザインプログラムの授業について、あなたの考えに最もあてはまる数字を「1 まったくそう思わない」～「5 とてもそう思う」から1つ選んでください。

	質問項目	まったく そう思わ ない	あまりそ う思わな い	どちらと もいえな い	まあそう 思う	とてもそ う思う
1	大学生活をどのように過ごすかを考えられるようになった	1	2	3	4	5
2	自己理解が深まった	1	2	3	4	5
3	自分の将来について考えられるようになった	1	2	3	4	5
4	進路選択・就職活動の際に役立った	1	2	3	4	5

問4. 大学の授業への取り組みについて、あなたの行動にあてはまる数字を「1 まったくそうではない」～「5 とてもそうである」から1つ選んでください。

		まったく そうでは ない	あまりそ うではな い	どちらと もいえな い	まあそう である	とても そうで ある
1	履修の計画を立てるときに、志望している進路のために、何をすればよいかを考える	1	2	3	4	5
2	大学の勉強と自分の興味を、どうすれば結びつけることができるのかを考える	1	2	3	4	5
3	単位や科目の取り方を調べる	1	2	3	4	5
4	授業が自分に合うかどうかを調べる	1	2	3	4	5
5	先輩達が授業で学んだことを、どのように活かしているのかを聞く機会に参加する	1	2	3	4	5
6	履修計画の立て方がわからないときは、履修について詳しいひとに質問をする	1	2	3	4	5
7	授業を通して自分という人間について考えてみる	1	2	3	4	5
8	単位を思うように取れないときに、どうすればよいかを誰かに相談する	1	2	3	4	5

II. キャリア行動について

問5. 2017年3月に卒業・修了する方におうかがいします。

あなたは就職・進学先などの進路が決まっていますか(内定していますか)。あてはまる数字を1つ選んでください。

1. 進路が決まっている
2. まだ進路が決まっていない
3. まだ進路を考えていない

SQ5-3. 問5で「2. まだ進路が決まっていない」に回答した方
大学卒業または大学院修了後はどのような進路を希望していますか。あてはまる数字をすべて選んでください。(複数回答可)

1. 民間企業
2. 教員
3. 公務員(教員を除く)
4. 進学(お茶の水女子大学大学院)
5. 進学(お茶の水女子大学ではない大学・大学院)
6. その他()
7. まだ決まっていない

SQ5-4. 問5で「2. まだ進路が決まっていない」に回答した方
「働く」ことについて、どのように考えていますか。

1. 働きたいと思う
2. まあ働きたいと思う
3. どちらともいえない
4. あまり働きたいと思わない
5. 働きたいと思わない

ここから全員におうかがいします。

問6. 大学卒業後または大学院前期課程修了後の進路はいつごろから考え始めましたか(あるいは、考え始めますか)。

1. 大学入学前まで
2. 大学1年生頃
3. 大学2年生頃
4. 大学3年生頃
5. 大学4年生頃
6. 大学院前期課程1年生頃
7. 大学院前期課程2年生頃

問7. 就職・進学などの進路について、誰に相談しますか。

1. 父親
2. 母親
3. 親以外の年長者(祖父母、兄姉、親類、知人など)
4. 先輩
5. 友人
6. 大学の教員
7. 大学の相談窓口(キャリア相談、学生相談室など)
8. その他()
9. 誰にも相談しない

問8. 学生・キャリア支援センターが実施する以下に記載したキャリア支援の中で、あなたが利用したことがあるものすべてについて「利用の有無」欄にチェックをつけてください。また、チェックをつけた項目がどの程度役に立ったのか、それぞれについてあてはまる数字を1つ選んでください。

	項目	利用の有無	役立ち度				
			とても役に立った	まあまあ役に立った	どちらともいえない	あまり役に立たなかった	まったく役に立たなかった
1	セミナーやガイダンス		5	4	3	2	1
2	ワークショップ		5	4	3	2	1
3	就職情報資料室(図書や資料等の閲覧)		5	4	3	2	1
4	OG名簿閲覧		5	4	3	2	1
5	学生・キャリア支援センターのホームページ		5	4	3	2	1
6	キャリア相談		5	4	3	2	1
7	その他()		5	4	3	2	1
8	利用したことはない		—	—	—	—	—

Ⅲ インターンシップについて

問9. 大学に入学してから現在までの間に、インターンシップに参加したことがありますか。

1. はい
2. いいえ

次のSQ9-1からSQ9-5は、問9で「1. はい」と回答した方がお答えください

SQ9-1. インターンシップへの応募方法をすべて選んでください。(複数回答可)

1. 大学経由
2. 大学経由以外

SQ9-2. インターンシップに参加した時期はいつでしたか。あてはまる数字をすべて選んでください。(複数回答可)

1. 夏(7-9月)
2. 冬(12-1月)
3. 春(2-3月)
4. それ以外

SQ9-3. インターンシップに参加した期間について、あてはまる数字をすべて選んでください。(複数回答可)

1. 5日未満 (1DAYも含む)
2. 5日間 (1週間程度)
3. 10日間 (2週間程度)
4. 2週間を超える期間

SQ9-4. インターンシップでの報酬はありましたか。あてはまる数字をすべて選んでください。(複数回答可)

1. 有償 (交通費や食費は含みません)
2. 無償

SQ9-5. あなたが参加したインターンシップの種類で、参加したことがあるものすべてにチェックをつけてください。そして参加したインターンシップで経験した内容について、あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

	種類	種類 参加したことがある場合に チェック	参加したインターンシップの内容				社員との交流
			会社見学・工場 見学・職場見学	実際の現場での 仕事体験	グループワーク (企画立案、課題 体験、プレゼン等)	インターンシッ プ先の業務説 明、人事や社員 の講義・レクチ ャー	
1	民間						
2	公務						
3	教職						
4	海外						
5	学内*						

*図書館 lisa など

IV. キャリア意識について

問10. あなたは自分の将来の職業などのキャリアについて、どのように考えていますか。あてはまる数字を1つ選んでください。

1. やりたい仕事がある
2. 仕事について漠然と考えている
3. まだ先のことなので今は考えていない
4. まったく関心がない
5. 何をしたいのか自分でもわからない

問1 1. あなたは就職先を決めるとき、次のようなことをどの程度重視しますか。あてはまる数字を1つ選んでください。

	質問項目	まったく重視しない	あまり重視しない	どちらともいえない	まあ重視する	とても重視する
1	学生時代に学んだ知識や技術が活かすことができる	1	2	3	4	5
2	仕事を通して能力や技術を身につけられる	1	2	3	4	5
3	給料が高い	1	2	3	4	5
4	産休・育休や介護休暇等を取りやすい会社である	1	2	3	4	5
5	転勤がない	1	2	3	4	5
6	国際的に働くことができる	1	2	3	4	5
7	性別に関係なく管理職や高度な専門職を目指すことができる	1	2	3	4	5

問1 2. 以下の情報収集や自己分析に関する行動について、あなたはどの程度あてはまりますか。あてはまる数字を1つ選んでください。

	質問項目	非常によく行っている	よく行っている	どちらともいえない	あまり行っていない	全く行っていない
1	本や雑誌、インターネットなどで仕事や働くことに関連する記事を読む	1	2	3	4	5
2	将来の仕事について友人や先輩、家族などから話を聴く	1	2	3	4	5
3	興味がある仕事に関する情報を集める	1	2	3	4	5
4	興味がある仕事で必要とされる知識や資格について調べる	1	2	3	4	5
5	自分の長所や短所について考えてみる	1	2	3	4	5
6	これからの自分の生き方について想像してみる	1	2	3	4	5
7	自分が好きなこと、得意なことについて考えてみる	1	2	3	4	5

問1 3. 将来の結婚と仕事への考えについて、あなたの考えにもっとも近い回答の数字を1つ選んでください。

1. 結婚せず、仕事をずっと続ける
2. 結婚せず、仕事もしない
3. 結婚したら仕事をやめる
4. 結婚するが子どもはもたず、仕事をずっと続ける

5. 結婚して子どもができれば仕事をやめる
6. 結婚して子どもができれば仕事を一旦やめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする
7. 結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける
8. 結婚や仕事について、まだ考えていない

問14. 結婚後の家庭での役割と仕事への考えについて、あなたの考えにもっとも近い数字を1つ選んでください。

	質問項目	そう思う	まあそう 思う	どちらと もいえな い	あまりそ う思わな い	まったく そう思わ ない
1	子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたず、育児に専念すべきである	1	2	3	4	5
2	経済的に家族を支えるのは夫の役割である	1	2	3	4	5
3	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
4	妻も仕事と自分の収入をもつべきである	1	2	3	4	5

付表2 単純集計表

I. 大学生活とキャリアデザインプログラム科目について

Q1 「あなたの大学生活について次にあげることはどのくらいあてはまると思いますか」

Q1_1. 学業(講義および研究など)に対してまじめに取り組んでいる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく当てはまらない	5	.7	.7	.7
	あまり当てはまらない	52	7.3	7.6	8.4
	どちらともいえない	59	8.3	8.7	17.0
	やや当てはまる	324	45.3	47.6	64.6
	とても当てはまる	241	33.7	35.4	100.0
	合計	681	95.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	34	4.8		
	合計	715	100.0		
Q1_2. 部活動・サークル活動などに熱心に参加している		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく当てはまらない	148	20.7	21.8	21.8
	あまり当てはまらない	87	12.2	12.8	34.6
	どちらともいえない	82	11.5	12.1	46.7
	やや当てはまる	178	24.9	26.2	72.9
	とても当てはまる	184	25.7	27.1	100.0
	合計	679	95.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	36	5.0		
	合計	715	100.0		
Q1_3. アルバイトにまじめに取り組んでいる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく当てはまらない	99	13.8	14.6	14.6
	あまり当てはまらない	51	7.1	7.5	22.2
	どちらともいえない	100	14.0	14.8	37.0
	やや当てはまる	249	34.8	36.8	73.8
	とても当てはまる	177	24.8	26.2	100.0
	合計	676	94.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	39	5.5		
	合計	715	100.0		

Q2 キャリアデザインプログラム基幹科目群で、受講中もしくは受講したことがある科目すべてにチェックを付けてください(複数回答可)

Q2m_1. 「お茶の水女子大学論」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	478	66.9	66.9	66.9
	受講した	237	33.1	33.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_2. 「女性リーダーへの道(入門編)」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	665	93.0	93.0	93.0
	受講した	50	7.0	7.0	100.0
	合計	715	100.0	100.0	

Q2m_3. 「女性リーダーへの道(実践入門編)」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	702	98.2	98.2	98.2
	受講した	13	1.8	1.8	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_4. 「女性リーダーへの道(ロールモデル入門編)」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	679	95.0	95.0	95.0
	受講した	36	5.0	5.0	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_5. 「ことばと世界12 知能環境論」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	707	98.9	98.9	98.9
	受講した	8	1.1	1.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_6. 「情報コミュニケーション技術と創発性」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	699	97.8	97.8	97.8
	受講した	16	2.2	2.2	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_7. 「キャリアプランとライフプランI」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	664	92.9	92.9	92.9
	受講した	51	7.1	7.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_8. 「キャリアプランとライフプランII」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	705	98.6	98.6	98.6
	受講した	10	1.4	1.4	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_9. 「キャリアプランニング実習」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	699	97.8	97.8	97.8
	受講した	16	2.2	2.2	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_10. 「働く女性の権利と地位」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	711	99.4	99.4	99.4
	受講した	4	.6	.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_11. 「共生社会で働く」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	702	98.2	98.2	98.2
	受講した	13	1.8	1.8	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_12. 「インターンシップ」 「インターンシップ(大学院)」 「インターンシップI」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	689	96.4	96.4	96.4
	受講した	26	3.6	3.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q2m_13. 「インターンシップII」		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	受講していない	712	99.6	99.6	99.6
	受講した	3	.4	.4	100.0
	合計	715	100.0	100.0	

Q3 受講したキャリアデザインプログラムの授業について、あなたの考えに最も当てはまるものを1つ選んでください

Q3_1. 大学生活をどのように過ごすかを考えられるようになった		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそう思わない	22	3.1	6.7	6.7
	あまりそう思わない	35	4.9	10.7	17.4
	どちらともいえない	59	8.3	18.0	35.4
	まあそう思う	176	24.6	53.7	89.0
	とてもそう思う	36	5.0	11.0	100.0
	合計	328	45.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	387	54.1		
合計		715	100.0		
Q3_2. 自己理解が深まった		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそう思わない	28	3.9	8.5	8.5
	あまりそう思わない	59	8.3	18.0	26.5
	どちらともいえない	82	11.5	25.0	51.5
	まあそう思う	128	17.9	39.0	90.5
	とてもそう思う	31	4.3	9.5	100.0
	合計	328	45.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	387	54.1		
合計		715	100.0		
Q3_3. 自分の将来について考えられるようになった		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそう思わない	20	2.8	6.1	6.1
	あまりそう思わない	35	4.9	10.7	16.8
	どちらともいえない	60	8.4	18.3	35.1
	まあそう思う	160	22.4	48.8	83.8
	とてもそう思う	53	7.4	16.2	100.0
	合計	328	45.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	387	54.1		
合計		715	100.0		
Q3_4. 進路選択・就職活動の際に役立った		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそう思わない	24	3.4	7.3	7.3
	あまりそう思わない	61	8.5	18.6	25.9
	どちらともいえない	112	15.7	34.1	60.1
	まあそう思う	102	14.3	31.1	91.2
	とてもそう思う	29	4.1	8.8	100.0
	合計	328	45.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	387	54.1		
合計		715	100.0		

Q4 大学の授業への取り組みについて、あなたの行動に当てはまるものを一つ選んでください

Q4_1. 履修の計画を立てるときに、志望している進路のために、何をすればよいかを考える		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそうではない	38	5.3	5.7	5.7
	あまりそうではない	135	18.9	20.1	25.8
	どちらともいえない	89	12.4	13.3	39.0
	まあそうである	252	35.2	37.6	76.6
	とてもそうである	157	22.0	23.4	100.0
	合計	671	93.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	44	6.2		
合計		715	100.0		
Q4_2. 大学の勉強と自分の興味を、どうすれば結びつけることができるのかを考える		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそうではない	20	2.8	3.0	3.0
	あまりそうではない	47	6.6	7.0	10.0
	どちらともいえない	58	8.1	8.7	18.7
	まあそうである	347	48.5	51.8	70.4
	とてもそうである	198	27.7	29.6	100.0
	合計	670	93.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	45	6.3		
合計		715	100.0		
Q4_3. 単位や科目の取り方を調べる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそうではない	13	1.8	1.9	1.9
	あまりそうではない	19	2.7	2.8	4.8
	どちらともいえない	42	5.9	6.3	11.0
	まあそうである	309	43.2	46.1	57.2
	とてもそうである	287	40.1	42.8	100.0
	合計	670	93.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	45	6.3		
合計		715	100.0		
Q4_4. 授業が自分に合うかどうかを調べる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそうではない	20	2.8	3.0	3.0
	あまりそうではない	47	6.6	7.1	10.1
	どちらともいえない	70	9.8	10.5	20.6
	まあそうである	327	45.7	49.1	69.7
	とてもそうである	202	28.3	30.3	100.0
	合計	666	93.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	49	6.9		
合計		715	100.0		

Q4_5. 先輩達が授業で学んだことを、どのように活かしているのかを聞く機会に参加する		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそうではない	178	24.9	26.6	26.6
	あまりそうではない	211	29.5	31.5	58.1
	どちらともいえない	133	18.6	19.9	77.9
	まあそうである	120	16.8	17.9	95.8
	とてもそうである	28	3.9	4.2	100.0
	合計	670	93.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	45	6.3		
合計		715	100.0		
Q4_6. 履修計画の立て方がわからないときは、履修について詳しいひとに質問をする		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそうではない	73	10.2	10.9	10.9
	あまりそうではない	94	13.1	14.1	25.0
	どちらともいえない	126	17.6	18.8	43.8
	まあそうである	260	36.4	38.9	82.7
	とてもそうである	116	16.2	17.3	100.0
	合計	669	93.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	46	6.4		
合計		715	100.0		
Q4_7. 授業を通して自分という人間について考えてみる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそうではない	79	11.0	11.8	11.8
	あまりそうではない	155	21.7	23.1	34.9
	どちらともいえない	177	24.8	26.4	61.3
	まあそうである	162	22.7	24.2	85.5
	とてもそうである	97	13.6	14.5	100.0
	合計	670	93.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	45	6.3		
合計		715	100.0		
Q4_8. 単位を思うように取れないときに、どうすればよいのかを誰かに相談する		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	全くそうではない	156	21.8	23.3	23.3
	あまりそうではない	172	24.1	25.7	49.0
	どちらともいえない	157	22.0	23.4	72.4
	まあそうである	144	20.1	21.5	93.9
	とてもそうである	41	5.7	6.1	100.0
	合計	670	93.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	45	6.3		
合計		715	100.0		

II. キャリア行動について

Q5 2017年に3月に卒業・修了する方にお伺いします。

RQ5. 2017年3月卒業・修了者		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	進路が決まっている	214	29.9	32.1	32.1
	まだ進路が決まっていない	452	63.2	67.9	100.0
	合計	666	93.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	49	6.9		
合計		715	100.0		
Q5. 2017年3月卒業・修了者_就職・進学先などの進路決定		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	進路が決まっている	174	24.3	83.3	83.3
	まだ進路が決まっていない	32	4.5	15.3	98.6
	まだ進路を考えていない	3	.4	1.4	100.0
	合計	209	29.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	506	70.8		
合計		715	100.0		
Q5_1. 進路決定者_具体的な進路		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	民間企業	80	11.2	46.0	46.0
	教員	6	.8	3.4	49.4
	公務員（教員除く）	22	3.1	12.6	62.1
	進学（お茶大院）	43	6.0	24.7	86.8
	進学（お茶大ではない大学・大学院）	13	1.8	7.5	94.3
	その他	10	1.4	5.7	100.0
	合計	174	24.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	541	75.7		
合計		715	100.0		
Q5_1_6_other. 進路_その他の具体例		度数	パーセント	有効%	累積%
有効		705	98.6	98.6	98.6
	家業を手伝う	1	.1	.1	98.7
	今も現職（教員）です。	1	.1	.1	98.9
	社会人学生のため、すでに就職済みです。	1	.1	.1	99.0
	出身学科の助手	1	.1	.1	99.2
	大学職員	1	.1	.1	99.3
	大学法人	1	.1	.1	99.4
	独立行政法人	3	.4	.4	99.9
	独立行政法人職員	1	.1	.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_1. 民間企業進路_就業形態		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	正規社員・総合職	67	9.4	87.0	87.0
	正規社員・エリア限定職	3	.4	3.9	90.9
	正規社員・一般職	7	1.0	9.1	100.0
	合計	77	10.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	638	89.2		
合計		715	100.0		

Q5_1_2m_1. お茶大進学_大学院修了後の進路_民間企業		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	689	96.4	96.4	96.4
	希望している	26	3.6	3.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_2m_2. お茶大進学_大学院修了後の進路_教員		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	710	99.3	99.3	99.3
	希望している	5	.7	.7	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_2m_3. お茶大進学_大学院修了後の進路_公務員 (教員を除く)		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	703	98.3	98.3	98.3
	希望している	12	1.7	1.7	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_2m_4. お茶大進学_大学院修了後の進路_進学 (お茶大大学院)		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	705	98.6	98.6	98.6
	希望している	10	1.4	1.4	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_2m_5. お茶大進学_大学院修了後の進路_進学 (お茶大ではない大学・大学院)		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	710	99.3	99.3	99.3
	希望している	5	.7	.7	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_2m_6. お茶大進学_大学院修了後の進路_その他		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	714	99.9	99.9	99.9
	希望している	1	.1	.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_2m_6_other. お茶大進学_大学院修了後の進路_その他		度数	パーセント	有効%	累積%
有効		714	99.9	99.9	99.9
	研究機関	1	.1	.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_2m_7. お茶大進学_大学院修了後の進路_まだ決まっていない		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	決まっている	708	99.0	99.0	99.0
	決まっていない	7	1.0	1.0	100.0
	合計	715	100.0	100.0	

Q5_1_3. お茶大以外の大学院を進学希望先に選んだ理由		度数	パーセント	有効%	累積%
有効		706	98.7	98.7	98.7
	お茶大の外を見てみたかった。お茶大で身につけたことが外でも通じるか確かめたかった。現在の指導教員に3年生のときに、外部の大学院を勧められた。理由は、外部のほうが私が興味をもっている分野であるバイオインフォマティクスの研究室がたくさんあるから。	1	.1	.1	98.9
	もっと上の大学院に行きたかった。また、自分に女子大は合わなかった。	1	.1	.1	99.0
	興味がある研究内容の研究室がある。より多様性がある環境で研究できる。	1	.1	.1	99.2
	結婚できなそう 設備が不十分 より知識に関しても経験に関してもレベルアップしたい	1	.1	.1	99.3
	研究したいと思った分野の研究室がお茶大にはなく、その大学院にあったから。	1	.1	.1	99.4
	厳しい環境に身を置くため	1	.1	.1	99.6
	行きたい研究室があったから。	1	.1	.1	99.7
	専門分野をより深く勉強できる研究室を見つけたから。	1	.1	.1	99.9
	他大学にもっと興味のある研究室がある。研究を進めるのに環境がよくない。(学生数や学生の意識等)	1	.1	.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_2. 進路決定者_進路先に対する満足度		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	満足している	101	14.1	59.1	59.1
	まあ満足している	55	7.7	32.2	91.2
	どちらでもない	13	1.8	7.6	98.8
	あまり満足していない	1	.1	.6	99.4
	満足していない	1	.1	.6	100.0
	合計	171	23.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	544	76.1		
	合計	715	100.0		
Q5_1_3m_1. 進路未定者_大学院修了後の進路_民間企業		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	708	99.0	99.0	99.0
	希望している	7	1.0	1.0	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_3m_2. 進路未定者_大学院修了後の進路_教員		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	714	99.9	99.9	99.9
	希望している	1	.1	.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_3m_3. 進路未定者_大学院修了後の進路_公務員(教員を除く)		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	714	99.9	99.9	99.9
	希望している	1	.1	.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_3m_4. 進路未定者_大学院修了後の進路_進学(お茶大大学院)		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	696	97.3	97.3	97.3
	希望している	19	2.7	2.7	100.0
	合計	715	100.0	100.0	

Q5_1_3m_5. 進路未定者_大学院修了後の進路_進学（お茶大ではない大学・大学院）		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	709	99.2	99.2	99.2
	希望している	6	.8	.8	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_3m_6. 進路未定者_大学院修了後の進路_その他		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	希望していない	712	99.6	99.6	99.6
	希望している	3	.4	.4	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_3m_6_other. 進路未定者_大学院修了後の進路_その他具体例		度数	パーセント	有効%	累積%
有効		713	99.7	99.7	99.7
	地方自治体に最終合格しましたが、まだ内定が出ていません。内定が出ればそこに就職します。	1	.1	.1	99.9
	福祉法人	1	.1	.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q5_1_3m_7. 進路未定者_大学院修了後の進路_まだ決まっていない		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	決まっている	715	100.0	100.0	100.0
Q5_4. 「働く」ことについての考え		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	働きたいと思う	20	2.8	62.5	62.5
	まあ働きたいと思う	7	1.0	21.9	84.4
	どちらともいえない	2	.3	6.3	90.6
	あまり働きたいと思わない	3	.4	9.4	100.0
	合計	32	4.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	683	95.5		
合計		715	100.0		

Q6 大学卒業後または大学院前期課程修了後の進路はいつごろから考え始めましたか(あるいは、考え始めますか)

Q6. 大学卒業・大学院前期課程修了後の進路を考え始めた時期		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	大学入学前まで	136	19.0	21.0	21.0
	大学1年生頃	109	15.2	16.8	37.8
	大学2年生頃	117	16.4	18.0	55.8
	大学3年生頃	187	26.2	28.8	84.6
	大学4年生頃	36	5.0	5.5	90.1
	大学院前期課程1年生頃	52	7.3	8.0	98.2
	大学院前期課程2年生頃	12	1.7	1.8	100.0
	合計	649	90.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	66	9.2		
合計		715	100.0		

Q7 就職・進学などの進路について、誰に相談しますか

Q7m_1. 父親		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	相談しない	396	55.4	55.4	55.4
	相談する	319	44.6	44.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q7m_2. 母親		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	相談しない	239	33.4	33.4	33.4
	相談する	476	66.6	66.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q7m_3. 親以外の年長者		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	相談しない	528	73.8	73.8	73.8
	相談する	187	26.2	26.2	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q7m_4. 先輩		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	相談しない	439	61.4	61.4	61.4
	相談する	276	38.6	38.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q7m_5. 友人		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	相談しない	359	50.2	50.2	50.2
	相談する	356	49.8	49.8	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q7m_6. 大学の教員		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	相談しない	574	80.3	80.3	80.3
	相談する	141	19.7	19.7	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q7m_7. 大学の相談窓口		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	相談しない	611	85.5	85.5	85.5
	相談する	104	14.5	14.5	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q7m_8. 進路の相談_その他		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	相談しない	683	95.5	95.5	95.5
	相談する	32	4.5	4.5	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q7m_9. 誰にも相談しない		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	相談する	666	93.1	93.1	93.1
	誰にも相談しない	49	6.9	6.9	100.0
	合計	715	100.0	100.0	

Q7m_8_other. 進路の相談_その他具体例	度数	パーセント	有効%	累積%
有効	688	96.2	96.2	96.2
エージェントの方	1	.1	.1	96.4
ジョブカフェのカウンセラー	1	.1	.1	96.5
その職業のOBOG	1	.1	.1	96.6
以前の学校の恩師	1	.1	.1	96.8
恩師	1	.1	.1	96.9
企業説明会で知り合った方	1	.1	.1	97.1
交際者	1	.1	.1	97.2
公務員予備校	1	.1	.1	97.3
高校の教員	1	.1	.1	97.5
高校時代は担任に相談し、ここで現在までの進路がほぼ決まった。その後は自分で検討を重ねた。	1	.1	.1	97.6
婚約者	1	.1	.1	97.8
社会人	1	.1	.1	97.9
主人	1	.1	.1	98.0
就活支援サービス提供企業	1	.1	.1	98.2
就職支援の企業	1	.1	.1	98.3
人材エージェントサービススタッフ	1	.1	.1	98.5
旦那	1	.1	.1	98.6
付き合っている人	1	.1	.1	98.7
夫	3	.4	.4	99.2
附属図書館職員	1	.1	.1	99.3
妹	1	.1	.1	99.4
恋人	4	.6	.6	100.0
合計	715	100.0	100.0	

Q8 キャリア支援の中で、利用したかどうか、また、利用したものがどの程度役に立ったのか、それぞれ当てはまるものを選んでください。

Q8m_1. セミナーやガイダンス	度数	パーセント	有効%	累積%
有効				
利用なし	424	59.3	59.3	59.3
利用あり	291	40.7	40.7	100.0
	まったく役に立たなかった	3	.4	1.0
	あまり役に立たなかった	17	2.4	5.9
	どちらともいえない	22	3.1	14.7
有効	まあまあ役に立った	180	25.2	62.9
	とても役に立った	64	9.0	100.0
	合計	286	40.0	100.0
欠損値	システム欠損値	423	59.2	
	合計	429	60.0	
合計		715	100.0	

Q8m_2. ワークシヨップ		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	利用なし	651	91.0	91.0	91.0
	利用あり	64	9.0	9.0	100.0
	あまり役に立たなかった	6	.8	9.5	9.5
	どちらともいえない	7	1.0	11.1	20.6
有効	まあまあ役に立った	35	4.9	55.6	76.2
	とても役に立った	15	2.1	23.8	100.0
	合計	63	8.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	651	91.0		
	合計	652	91.2		
合計		715	100.0		
Q8m_3. 就職情報資料室		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	利用なし	573	80.1	80.1	80.1
	利用あり	142	19.9	19.9	100.0
	まったく役に立たなかった	2	.3	1.5	1.5
	あまり役に立たなかった	7	1.0	5.2	6.7
有効	どちらともいえない	23	3.2	17.0	23.7
	まあまあ役に立った	79	11.0	58.5	82.2
	とても役に立った	24	3.4	17.8	100.0
	合計	135	18.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	573	80.1		
	合計	580	81.1		
合計		715	100.0	100.0	
Q8m_4. 06名簿閲覧		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	利用なし	668	93.4	93.4	93.4
	利用あり	47	6.6	6.6	100.0
有効	まったく役に立たなかった	4	.6	8.3	8.3
	あまり役に立たなかった	20	2.8	41.7	50.0
	どちらともいえない	6	.8	12.5	62.5
	まあまあ役に立った	13	1.8	27.1	89.6
	とても役に立った	5	.7	10.4	100.0
	合計	48	6.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	667	93.3		
合計		715	100.0	100.0	

Q8m_5. 学生・キャリア支援センターHP		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	利用なし	566	79.2	79.2	79.2
	利用あり	149	20.8	20.8	100.0
	まったく役に立たなかった	3	.4	2.1	2.1
	あまり役に立たなかった	14	2.0	9.6	11.6
有効	どちらともいえない	31	4.3	21.2	32.9
	まあまあ役に立った	66	9.2	45.2	78.1
	とても役に立った	32	4.5	21.9	100.0
	合計	146	20.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	565	79.0		
	合計	569	79.6		
合計		715	100.0	100.0	
Q8m_6. キャリア相談		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	利用なし	603	84.3	84.3	84.3
	利用あり	112	15.7	15.7	100.0
	まったく役に立たなかった	7	1.0	6.4	6.4
	あまり役に立たなかった	7	1.0	6.4	12.7
有効	どちらともいえない	9	1.3	8.2	20.9
	まあまあ役に立った	38	5.3	34.5	55.5
	とても役に立った	49	6.9	44.5	100.0
	合計	110	15.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	602	84.2		
	合計	605	84.6		
合計		715	100.0	100.0	
Q8m_7. その他		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	利用なし	711	99.4	99.4	99.4
	利用あり	4	.6	.6	100.0
	どちらともいえない	2	.3	66.7	66.7
有効	まあまあ役に立った	1	.1	33.3	100.0
	合計	3	.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	711	99.4		
	合計	712	99.6		
合計		715	100.0	100.0	

Ⅲ インターンシップについて

Q9 大学に入学してから現在までの間に、インターンシップに参加したことがありますか。

Q9. インターンシップ参加の有無		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	はい	229	32.0	35.2	35.2
	いいえ	421	58.9	64.8	100.0
	合計	650	90.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	65	9.1		
合計		715	100.0		

Q9-1 インターンシップの応募方法、時期、期間、報酬の有無

Q9_1m_1. 応募方法_大学経由		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	応募していない	623	87.1	87.1	87.1
	応募した	92	12.9	12.9	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_1m_2. 応募方法_大学経由以外		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	応募していない	546	76.4	76.4	76.4
	応募した	169	23.6	23.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_2m_1. 参加時期_夏		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	534	74.7	74.7	74.7
	参加	181	25.3	25.3	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_2m_2. 参加時期_冬		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	637	89.1	89.1	89.1
	参加	78	10.9	10.9	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_2m_3. 参加時期_春		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	673	94.1	94.1	94.1
	参加	42	5.9	5.9	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_2m_4. 参加時期_それ以外		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	682	95.4	95.4	95.4
	参加	33	4.6	4.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_3m_1. 参加期間_5日未満		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	584	81.7	81.7	81.7
	参加	131	18.3	18.3	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_3m_2. 参加期間_5日間		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	660	92.3	92.3	92.3
	参加	55	7.7	7.7	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_3m_3. 参加期間_10日～2週間程度		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	673	94.1	94.1	94.1
	参加	42	5.9	5.9	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_3m_4. 参加期間_2週間超		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	632	88.4	88.4	88.4
	参加	83	11.6	11.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	

Q9_4m_1. インターンシップ報酬_有償		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	有償ではない	667	93.3	93.3	93.3
	有償	48	6.7	6.7	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_4m_2. インターンシップ報酬_無償		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	無償ではない	516	72.2	72.2	72.2
	無償	199	27.8	27.8	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_1m0. インターンシップ参加_民間		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	540	75.5	75.5	75.5
	参加	175	24.5	24.5	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_1m1. インターンシップ参加_民間_会社見学・工場見学・職場見学		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	633	88.5	88.5	88.5
	参加	82	11.5	11.5	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_1m2. インターンシップ参加_民間_実際の現場での仕事体験		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	639	89.4	89.4	89.4
	参加	76	10.6	10.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_1m3. インターンシップ参加_民間_グループワーク		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	583	81.5	81.5	81.5
	参加	132	18.5	18.5	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_1m4. インターンシップ参加_民間_業務説明・人事や社員の講義・レクチャー		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	588	82.2	82.2	82.2
	参加	127	17.8	17.8	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_1m5. インターンシップ参加_民間_社員との交流		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	587	82.1	82.1	82.1
	参加	128	17.9	17.9	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_2m0. インターンシップ参加_公務		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	655	91.6	91.6	91.6
	参加	60	8.4	8.4	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_2m1. インターンシップ参加_公務_会社見学・工場見学・職場見学		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	677	94.7	94.7	94.7
	参加	38	5.3	5.3	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_2m2. インターンシップ参加_公務_実際の現場での仕事体験		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	678	94.8	94.8	94.8
	参加	37	5.2	5.2	100.0
	合計	715	100.0	100.0	

Q9_5_2m3. インターンシップ参加_公務_グループワーク		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	678	94.8	94.8	94.8
	参加	37	5.2	5.2	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_2m4. インターンシップ参加_公務_業務説明・人事や社員の講義・レクチャー		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	677	94.7	94.7	94.7
	参加	38	5.3	5.3	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_2m5. インターンシップ参加_公務_社員との交流		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	665	93.0	93.0	93.0
	参加	50	7.0	7.0	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_3m0. インターンシップ参加_教職		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	706	98.7	98.7	98.7
	参加	9	1.3	1.3	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_3m1. インターンシップ参加_教職_会社見学・工場見学・職場見学		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	712	99.6	99.6	99.6
	参加	3	.4	.4	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_3m2. インターンシップ参加_教職_実際の現場での仕事体験		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	708	99.0	99.0	99.0
	参加	7	1.0	1.0	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_3m3. インターンシップ参加_教職_グループワーク		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	714	99.9	99.9	99.9
	参加	1	.1	.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_3m4. インターンシップ参加_教職_業務説明・人事や社員の講義・レクチャー		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	713	99.7	99.7	99.7
	参加	2	.3	.3	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_3m5. インターンシップ参加_教職_社員との交流		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	712	99.6	99.6	99.6
	参加	3	.4	.4	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_4m0. インターンシップ参加_海外		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	705	98.6	98.6	98.6
	参加	10	1.4	1.4	100.0
	合計	715	100.0	100.0	

Q9_5_4m1. インターンシップ参加_海外_会社見学・工場見学・ 職場見学		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	711	99.4	99.4	99.4
	参加	4	.6	.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_4m2. インターンシップ参加_海外_実際の現場での仕事体 験		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	707	98.9	98.9	98.9
	参加	8	1.1	1.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_4m3. インターンシップ参加_海外_グループワーク		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	713	99.7	99.7	99.7
	参加	2	.3	.3	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_4m4. インターンシップ参加_海外_業務説明・人事や社員 の講義・レクチャー		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	711	99.4	99.4	99.4
	参加	4	.6	.6	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_4m5. インターンシップ参加_海外_社員との交流		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	707	98.9	98.9	98.9
	参加	8	1.1	1.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_5m0. インターンシップ参加_学内		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	693	96.9	96.9	96.9
	参加	22	3.1	3.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_5m1. インターンシップ参加_学内_会社見学・工場見学・ 職場見学		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	707	98.9	98.9	98.9
	参加	8	1.1	1.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_5m2. インターンシップ参加_学内_実際の現場での仕事体 験		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	696	97.3	97.3	97.3
	参加	19	2.7	2.7	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_5m3. インターンシップ参加_学内_グループワーク		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	707	98.9	98.9	98.9
	参加	8	1.1	1.1	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_5m4. インターンシップ参加_学内_業務説明・人事や社員 の講義・レクチャー		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	710	99.3	99.3	99.3
	参加	5	.7	.7	100.0
	合計	715	100.0	100.0	
Q9_5_5m5. インターンシップ参加_学内_社員との交流		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	不参加	708	99.0	99.0	99.0
	参加	7	1.0	1.0	100.0
	合計	715	100.0	100.0	

IV. キャリア意識について

Q10 あなたは自分の将来の職業などのキャリアについて、どのように考えていますか。当てはまるものを選んでください

Q10. 将来の職業などのキャリアについて		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	やりたい仕事がある	150	21.0	23.7	23.7
	漠然と考えている	363	50.8	57.3	81.0
	今は考えていない	32	4.5	5.1	86.1
	まったく関心がない	2	.3	.3	86.4
	何をしたいのかわからない	86	12.0	13.6	100.0
	合計	633	88.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	82	11.5		
合計		715	100.0		

Q11 あなたは就職先を決めるとき、次のようなことをどの程度重視しますか。当てはまるものを選んでください

Q11_1. 学生時代に学んだ知識や技術を活かすことができる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく重視しない	31	4.3	4.9	4.9
	あまり重視しない	79	11.0	12.4	17.2
	どちらともいえない	97	13.6	15.2	32.4
	まあ重視する	295	41.3	46.2	78.6
	とても重視する	137	19.2	21.4	100.0
	合計	639	89.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	76	10.6		
合計		715	100.0		
Q11_2. 仕事を通して能力や技術を身につけられる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく重視しない	14	2.0	2.2	2.2
	あまり重視しない	49	6.9	7.7	9.9
	どちらともいえない	87	12.2	13.7	23.5
	まあ重視する	320	44.8	50.2	73.8
	とても重視する	167	23.4	26.2	100.0
	合計	637	89.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	78	10.9		
合計		715	100.0		
Q11_3. 給料が高い		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく重視しない	12	1.7	1.9	1.9
	あまり重視しない	53	7.4	8.3	10.2
	どちらともいえない	103	14.4	16.2	26.4
	まあ重視する	364	50.9	57.1	83.5
	とても重視する	105	14.7	16.5	100.0
	合計	637	89.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	78	10.9		
合計		715	100.0		

Q11_4. 産休・育休や介護休暇等を取りやすい会社である		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく重視しない	15	2.1	2.4	2.4
	あまり重視しない	45	6.3	7.1	9.4
	どちらともいえない	77	10.8	12.1	21.5
	まあ重視する	280	39.2	44.0	65.5
	とても重視する	220	30.8	34.5	100.0
	合計	637	89.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	78	10.9		
合計		715	100.0		
Q11_5. 転勤がない		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく重視しない	49	6.9	7.8	7.8
	あまり重視しない	117	16.4	18.5	26.3
	どちらともいえない	174	24.3	27.5	53.8
	まあ重視する	199	27.8	31.5	85.3
	とても重視する	93	13.0	14.7	100.0
	合計	632	88.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	83	11.6		
合計		715	100.0		
Q11_6. 国際的に働くことができる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく重視しない	139	19.4	21.8	21.8
	あまり重視しない	178	24.9	27.9	49.8
	どちらともいえない	154	21.5	24.2	73.9
	まあ重視する	101	14.1	15.9	89.8
	とても重視する	65	9.1	10.2	100.0
	合計	637	89.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	78	10.9		
合計		715	100.0		
Q11_7. 性別に関係なく管理職や高度な専門職を目指すことができる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	まったく重視しない	24	3.4	3.8	3.8
	あまり重視しない	75	10.5	11.8	15.5
	どちらともいえない	140	19.6	22.0	37.5
	まあ重視する	263	36.8	41.3	78.8
	とても重視する	135	18.9	21.2	100.0
	合計	637	89.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	78	10.9		
合計		715	100.0		

Q12 以下の情報収集や自己分析に関する行動について、あなたはどの程度当てはまりますか。当てはまるものを1つ選んでください。

Q12_1. 本や雑誌、インターネットなどで仕事や働くことに関連する記事を読む		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	非常によく行っている	40	5.6	6.3	6.3
	よく行っている	113	15.8	17.7	24.0
	どちらともいえない	166	23.2	26.1	50.1
	あまり行っていない	231	32.3	36.3	86.3
	全く行っていない	87	12.2	13.7	100.0
	合計	637	89.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	78	10.9		
合計		715	100.0		
Q12_2. 将来の仕事について友人や先輩、家族などから話を聴く		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	非常によく行っている	28	3.9	4.4	4.4
	よく行っている	82	11.5	12.9	17.3
	どちらともいえない	131	18.3	20.6	37.9
	あまり行っていない	293	41.0	46.1	84.0
	全く行っていない	102	14.3	16.0	100.0
	合計	636	89.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	79	11.0		
合計		715	100.0		
Q12_3. 興味がある仕事に関する情報を集める		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	非常によく行っている	22	3.1	3.5	3.5
	よく行っている	66	9.2	10.4	13.8
	どちらともいえない	135	18.9	21.2	35.0
	あまり行っていない	298	41.7	46.8	81.8
	全く行っていない	116	16.2	18.2	100.0
	合計	637	89.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	78	10.9		
合計		715	100.0		
Q12_4. 興味がある仕事で必要とされる知識や資格について調べる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	非常によく行っている	27	3.8	4.2	4.2
	よく行っている	78	10.9	12.3	16.5
	どちらともいえない	134	18.7	21.1	37.6
	あまり行っていない	301	42.1	47.3	84.9
	全く行っていない	96	13.4	15.1	100.0
	合計	636	89.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	79	11.0		
合計		715	100.0		

Q12_5. 自分の長所や短所について考えてみる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	非常によく行っている	26	3.6	4.1	4.1
	よく行っている	56	7.8	8.8	12.9
	どちらともいえない	122	17.1	19.2	32.0
	あまり行っていない	306	42.8	48.0	80.1
	全く行っていない	127	17.8	19.9	100.0
	合計	637	89.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	78	10.9		
合計		715	100.0		
Q12_6. これからの自分の生き方について想像してみる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	非常によく行っている	18	2.5	2.8	2.8
	よく行っている	41	5.7	6.4	9.2
	どちらともいえない	96	13.4	15.0	24.3
	あまり行っていない	309	43.2	48.4	72.7
	全く行っていない	174	24.3	27.3	100.0
	合計	638	89.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	77	10.8		
合計		715	100.0		
Q12_7. 自分が好きなこと、得意なことについて考えてみる		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	非常によく行っている	13	1.8	2.1	2.1
	よく行っている	30	4.2	4.7	6.8
	どちらともいえない	84	11.7	13.2	20.0
	あまり行っていない	329	46.0	51.9	71.9
	全く行っていない	178	24.9	28.1	100.0
	合計	634	88.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	81	11.3		
合計		715	100.0		

Q13 将来の結婚と仕事への考えについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください

Q13. 将来の結婚と仕事への考え		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	結婚せず仕事を継続	79	11.0	12.4	12.4
	結婚せず、仕事もしない	1	.1	.2	12.6
	結婚後、仕事をやめる	12	1.7	1.9	14.4
	結婚するが子どもは持たず仕事継続	31	4.3	4.9	19.3
	結婚後、子どもができたら仕事をやめる	23	3.2	3.6	22.9
	出産後、一時仕事中断し復帰	141	19.7	22.1	45.1
	結婚・出産後も仕事継続	283	39.6	44.4	89.5
	結婚・仕事について考えていない	67	9.4	10.5	100.0
	合計	637	89.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	78	10.9		
合計		715	100.0		

Q14 結婚後の家庭での役割と仕事への考えについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください

Q14_1. 子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたず、育児に専念すべき		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	そう思う	132	18.5	20.8	20.8
	まあそう思う	182	25.5	28.7	49.4
	どちらともいえない	139	19.4	21.9	71.3
	あまりそう思わない	135	18.9	21.3	92.6
	まったくそう思わない	47	6.6	7.4	100.0
	合計	635	88.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	80	11.2		
合計		715	100.0		
Q14_2. 経済的に家族を支えるのは夫の役割である		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	そう思う	193	27.0	30.4	30.4
	まあそう思う	194	27.1	30.6	61.0
	どちらともいえない	114	15.9	18.0	79.0
	あまりそう思わない	107	15.0	16.9	95.9
	まったくそう思わない	26	3.6	4.1	100.0
	合計	634	88.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	81	11.3		
合計		715	100.0		
Q14_3. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	そう思う	300	42.0	47.3	47.3
	まあそう思う	200	28.0	31.5	78.9
	どちらともいえない	85	11.9	13.4	92.3
	あまりそう思わない	33	4.6	5.2	97.5
	まったくそう思わない	16	2.2	2.5	100.0
	合計	634	88.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	81	11.3		
合計		715	100.0		
Q14_4. 妻も仕事と自分の収入をもつべきである		度数	パーセント	有効%	累積%
有効	そう思う	20	2.8	3.1	3.1
	まあそう思う	44	6.2	6.9	10.0
	どちらともいえない	146	20.4	22.8	32.9
	あまりそう思わない	238	33.3	37.2	70.1
	まったくそう思わない	191	26.7	29.9	100.0
	合計	639	89.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	76	10.6		
合計		715	100.0		

平成29年度 キャリア意識調査報告書

発行日：平成30年3月

発行：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
東京都文京区大塚2-1-1

TEL 03-5978-2646

FAX 03-5978-5894

E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp
